

2025年度

学生便覧 神田外語大学

グローバル・リベラルアーツ学部



注意事項

◆掲示の確認

学生に対する通知・連絡は、特別な場合を除いてすべて掲示によって行います。確認しないでいると不都合が生じることがありますので、必ず学生用ポータルサイト（UNIPA）や学内の各種掲示板を見る習慣を付けて下さい。掲示した事柄は、周知されたものとして扱われますので注意してください。

◆提出期限の厳守

各種手続きや書類等の提出期限、取り扱い時間は厳守してください。

◆生活上の注意

互いを尊重し、健やかなる大学生活のために禁止事項を遵守してください。本学は全面禁煙です。中等教育機関も隣接する文教地区ですので周辺での喫煙もやめてください。また、宗教勧誘や無許可の商行為を禁じます。大学における注意事項は学生用ポータルサイト（UNIPA）のKUIS Student Guidebook を確認してください。

◆電話による問い合わせ

履修、休講、試験、学年暦等に関する事柄は、学生用ポータルサイト（UNIPA）（教務部問い合わせフォーム）か教務部窓口で直接確認してください。電話による問い合わせは間違いの原因となるため一切応じられません。

◆呼び出し

大学では原則として、掲示により学生に連絡を取ることになっています。授業等に支障をきたすことから、直接電話口への取次ぎや放送連絡には応じられませんので、あらかじめよく了解し、家族や知人などに周知しておいてください。

目 次

I	教育方針	1
1.	ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）	
2.	カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）	
II	学籍について	4
1.	修業年限と在学年限	
2.	休 学	
3.	復 学	
4.	退 学	
5.	除 籍	
6.	転籍（転学部）	
7.	再入学	
III	授業について	6
1.	授業期間	
2.	授業時間	
3.	休 講	
4.	補 講	
5.	出席管理システム	
6.	出席基準について	
7.	遅刻／早退の取り扱い	
8.	欠席の取り扱い	
IV	卒業の要件	10
1.	卒業要件	
2.	学 位	
3.	卒業発表	
4.	9 月卒業	
V	進級基準について	11
VI	単位と時間数	12
1.	単位制度	
2.	単位と時間数	
VII	履修登録単位数の上限・「卒業見込証明書」の発行	13
1.	各学年における履修登録単位数の上限について	
2.	「卒業見込証明書」の発行について	
VIII	授業科目について	17
1.	履修上の注意	
2.	科目ナンバリングについて	
3.	授業科目の紹介	
(1)	外国語科目	

(2) GLA基礎科目	
(3) 基礎教養科目	
(4) 専門教養科目	
(5) 演習科目	
(6) 必修の海外留学について	
(7) 自由選択科目	
IX 試験及び学力評価について	32
1. 試験	
2. 学力の評価	
3. GPA	
4. 成績確認制度	
5. 卒業再試験	
6. 選択外国語科目再試験	
X 他大学及び他機関で修得した単位の認定等について	37
1. 単位の認定	
2. 必修単位の履修免除制度	
3. 千葉県内の他大学の授業科目の認定について	
4. 入学前修得単位の認定について	
XI 転籍（転学部）について	38
1. 転籍（転学部）について	
2. 転籍（転学部）に伴う特例措置	
XII GLA Commonsについて	39
XIII 学内ネットワーク、コンピュータの利用について	40
1. 学内IT設備について	
2. 学内システムの利用	
3. 大学ネットワーク利用にあたっての注意点	
XIV KUISデータサイエンス・AI教育プログラム（基礎・応用）履修要項	45
1. プログラムの趣旨	
2. 各プログラムの修了要件	
XV 大学院言語科学研究科の概要	46
1. 設置の目的	
2. 英語学専攻の特色	
3. 日本語学専攻の特色	
4. 授業時間割	
5. 修了の要件	
6. 学位	
7. 修了証取得	
8. 募集人員	
9. 博士後期課程	
10. 授業科目	

I 教育方針

建学の理念とポリシー

神田外語大学の理念は、「言葉は世界をつなぐ平和の礎」です。グローバル・リベラルアーツ学部では、この建学の理念に基づき、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）を定めています。

育てたい人物像

神田外語大学は、広く一般知識を授け、深く専門技術を教授研究するとともに、わが国の伝統と文化を究明し、諸外国の文化を理解し、国際社会の一員として世界に貢献し得る人材を育成することを目的としています。

グローバル・リベラルアーツ学部は、広く一般知識を授け、国家や国民の枠組みでとらえることが困難な事象を多面的に理解するための専門学術や技法を教授研究するとともに、高度の英語運用能力と多文化共生力を備え、わが国と世界の困難な課題に立ち向かい、平和と繁栄の招来に主体的に貢献し得る能力を身につけさせることを教育研究上の目的としています。

1. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

＜グローバル・リベラルアーツ学部＞

グローバル・リベラルアーツ学部では、以下の能力を身につけることを目的として編成された教育課程において、定められた卒業要件単位を取得した場合に、卒業を認定し、学位を授与する。

- (1)多様な学問領域にわたる幅広い教養
- (2)人間と文化、社会と共生、平和にかかわるグローバルな事象に対する深い理解
- (3)グローバル社会で活躍するために不可欠な高度な英語運用能力
- (4)論理的かつ批判的な思考力
- (5)社会的な課題の発見と解決に貢献する力
- (6)異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢

本学部は、これらの能力を身につけ、現代社会が直面する諸問題を平和的に解決するべく、リーダーシップを発揮して立ち向かうことができる自立した人材を育成することを目的とする。

また、前述の目的と関連させたカリキュラム・ポリシーを、次のとおり設定しています。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）

＜グローバル・リベラルアーツ学部＞

グローバル・リベラルアーツ学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識や能力を備えた人材を育成するため、以下の点を重視し、体系的にカリキュラムを編成する。

1. 教育内容

（ア）多様な学問領域にわたる幅広い教養

GLA 基礎科目、基礎教養科目、専門教養科目及び演習科目（卒業研究を含む）に区分された各科目を適切な年次に配当し、人文科学、社会科学、自然科学、数理・データサイエンス分野などの幅広い学問領域をバランスよく学ぶカリキュラムを提供する。加えて、1年次前期の海外スタディ・ツアー、3年次後期のニューヨーク州立大学（SUNY）への留学において、日本国内では得られない様々な体験や、地域、言語、宗教、価値観などの異なる文化背景を持つ人々との交流を通じて、広義の教養を身につけることを目指す。

（イ）人間と文化、社会と共生、平和にかかわるグローバルな事象に対する深い理解

1年次前期に「グローバル・チャレンジ・ターム」を設け、異文化・異環境を知ることが目的とした入学直後の海外スタディ・ツアーを基軸に、関心のあるテーマを掘り下げ、大学4年間における学びを方向付けるための教育を提供する。1年次後期以降に、文化、歴史、宗教、社会や共同体、国際関係やガバナンスなどについての知識に基づき、深い文脈でグローバルな事象を理解する力を養う。具体的には、カリキュラムの中核をなす3領域の専門教養科目群（“Humanities”、“Societies”、“Global Studies”）を設置し、人文科学と社会科学の様々な知識と方法論を身につけ、それらを総合的に活用する能力を研鑽する教育を提供する。

（ウ）グローバル社会で活躍するために不可欠な高度な英語運用能力

1年次前期の英語の授業では、プレゼンテーション/ディスカッション、ライティングなど、スキルごとの到達目標を定め、継続性、統合性、個性を重視した指導により、段階的に目標達成に取り組む。1年次後期から2年次にかけては内容・言語統合型学習（CLIL: Content and Language Integrated Learning）の授業や英語で行われる専門教養科目を展開することで高度な英語運用能力を身につけさせるとともに、3年次後期には SUNY への半年間の留学の機会を提供する。

（エ）論理的かつ批判的な思考力

1年次に大学での学びに必要な基本的な読解力と言語表現力を養成する科目「基礎演習（アカデミック・スキルズ）」を配置し、文献や情報の収集・読解の方法とレポートの書き方を学ぶ。2～3年次にはアクティブラーニングを基本とする演習形式の授業「講読演習」、「研究演習」と、英語による“Discussions and Presentations”、“Media Literacy”、“Global Communication”等の授業を配置し、日本語と英語の両方における読解力、対話力、言語表現力を高めていくことで総合的に論理的・批判的思考力を研鑽する。さらに3年次後期には SUNY への半年間の留学を設定し、異文化環境において多角的で柔軟な思考力を修練する。最終的には4年次に取り組む卒業研究においてそれぞれの能力を十分に発揮することを目指す。

(オ) 社会的な課題の発見と解決に貢献する力

1 年次は、異文化環境において各地域の現状を見聞し、その体験の意味とその後の学修の方向性を学生自らが考察するための問題解決型の授業「グローバル・ディスカバリー」、オムニバス講義で平和や共生に対してどのように各学問領域からのアプローチが可能かを考える「グローバル・リベラルアーツ入門」を置く。これらの学びと研究の方向性に従って、「専門教養科目」において具体的な課題発見・解決の方法や知識を修得し、その成果を「卒業研究」にまとめていく。また、2 年次に「キャリアデザイン (GLA)」を、3 年次前期に「グローバル・キャリア」を置き、学生がグローバル社会で自己のキャリアをいかに確立し社会と関わっていくかを考察する機会を設ける。

(カ) 異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢

異なる文化や価値観、社会の多様性に対する理解を深めるため、GLA 基礎科目、基礎教養科目、専門教養科目、演習科目といったグローバルな視野を身につける科目を配置する。また、学生が異文化や共生社会を理解し尊重する姿勢を修得するために、異なる環境での適応力育成の機会となる、入学直後の「グローバル・チャレンジ・ターム」や、3 年次後期の SUNY への半年間の留学の機会を提供する。

2. 教育方法

- ・授業では、アクティブラーニングを導入することにより、学生の専門知識とその運用能力、思考力と積極的な学修態度を養う。
- ・1 ～ 2 年次はスキルを中心とした英語授業を展開し、1 年次後期からは CLIL の授業を履修させることで、「英語を」学ぶよりも「英語で」実践的かつ専門的な学修・運用能力を高める機会を提供する。
- ・学生の主体的な学修態度と学修能力を養うため、問題解決型授業を実施する。学生が課題を発見し、具体的な解決策を考えることができる教育を提供する。発表の場を通じて、学生のコミュニケーション能力やチームワーク、リーダーシップを養成する。
- ・現代のグローバル社会で必要な幅広い教養を身につけるため、外国語科目の他、GLA 基礎科目、基礎教養科目、専門教養科目、演習科目を教育課程に含める。基礎教養科目 B 群では、AI やデータサイエンスを身につけるための科目を含み、文理融合の教養を育む。

3. 学修成果の評価方法

- ・学修成果は、学生の授業科目の履修状況、各教育課程で達成した成果、および学士課程全般の成果を、教職員を中心として行う直接評価と、学生が自己の学修成果を主観的に判断する自己評価等の間接評価を通じて定期的に評価することとする。
- ・学生の学修状況は量と質の双方から観察し、学修ポートフォリオに記載させるなど、学修成果の可視化を図るとともに、学生の 4 年間の成長を段階的に評価する。

Ⅱ 学籍について

1. 修業年限と在学年限

1) 修業年限

4年間

本学部の教育課程を修了するために必要な期間です。

2) 在学年限

8年間

本学において学生の身分を有している期間で、休学・停学の期間を除きます。

2. 休 学

病気その他やむを得ない理由で1学期間（半年）以上に渡り修学することができない者は休学することができます。保証人と十分相談のうえ、申し出てください。（教務部）

1) 休学期間

- ① 1学期間（半年）あるいは2学期間（1年）
- ② 特別な理由がある場合は、改めて許可を得た上で3年を限度として延長可
- ③ 通算して4年を超えることはできない

2) 学費一部免除

- ① 対 象：学年の1学期間あるいは2学期間を通じて休学する者
- ② 免除額：授業料及び教育充実費
ただし、以下の経費の納入が必要です。

	1学期間	全学期間
在 籍 料	5万円	10万円

3) 必要なもの

- ① 休学願（所定の書式に保証人連署・捺印）
- ② その他

4) 休学手続完了期限

前期は3月末日、後期は8月末日（教務部）

※これを過ぎると休学は認められません。所定の期日までに必要な面談を終えたうえで、休学願を提出し、休学手続きを完了してください。

3. 復 学

休学していた者で復学する者は、復学の手続きが必要です。（教務部）

1) 必要なもの

- ① 復学願
- ② 復学年度の学費の納入（分納もしくは全納）
- ③ （休学理由が病気や怪我等の場合）通学可能とする医師の診断書

2) 復学願提出期限

休学期間終了前に送付する復学手続きの案内に従って、所定の期日までに提出してください。

4. 退 学

病気その他やむを得ない理由によって退学を希望する場合は、保証人と十分相談のうえ、申し出てください。（教務部）

1) 必要なもの

- ① 退学願（所定の書式に保証人連署・捺印）
- ② 学生証
- ③ 在籍確認票シール

2) 退学手続完了期限

期日超過後に退学願を提出した場合は、次の期末での退学となります。所定の期日までに必要な面談を終えたうえで、退学願を提出し、退学手続きを完了してください。

5. 除 籍

次のいずれかに該当する者は、除籍される場合があります。

- ① 在学年限を越える者
- ② 休学期間を越えても、なお復学もしくは退学しない者
- ③ 学費納入の義務を怠った者

※除籍された場合、本学での在籍の証明が一切できません。（在籍期間証明書・成績証明書等の発行はできません）

※学則第3条の定めにより、2年次における留年は1回限りとなります。2回目の留年をすると退学手続きをしなければ除籍となるので、注意してください。

6. 転籍（転学部）

転籍（転学部）を希望する者は、所定の期日までに手続きをしてください。（教務部）

（「XI 転籍（転学部）について」を参照のこと）

7. 再入学

1) 対象者

本学部を退学した者で、退学年度を含めて3学年度以内の者（出願時）

2) 再入学先

退学時に在籍していた学科

3) 入学年次

原則として退学時の年次としますが、既修得単位が進級基準を充たしている場合は、進級年次に再入学できることもあります。

Ⅲ 授業について

1. 授業期間

本学での授業は、原則として前期15週、後期15週の2学期制をとっています。

2. 授業時間

本学における授業時間は次の通りです。

1 限目	9 : 00～10 : 30
2 限目	10 : 40～12 : 10
昼休み 60分	
3 限目	13 : 10～14 : 40
4 限目	14 : 50～16 : 20
5 限目	16 : 30～18 : 00

3. 休 講

1) 授業が教員の都合や大学の行事などにより休講になる場合

学生用ポータルサイト（UNIPA）に掲示します。

2) 全学休講になる場合

次のいずれかに該当する場合、授業を全学休講とします。

A. 交通機関が運休した場合

B. 暴風警報または暴風雪警報が発令された場合

C. 自然災害や大規模な事故の発生などで学長が必要と判断した場合

A. 交通機関が運休した場合

判断基準とする路線及び区間（遅延・間引き運転を除く）

・ JR総武線（秋葉原～千葉）

・ JR京葉線（東京～蘇我）

上記の両路線が運休した場合は休講とします。ただし、いずれかの路線が運行している場合は、その限りではありません。

また、両路線のうち、1路線でも運行を開始した場合は、次の通りとします。

・ 午前6時00分までに運行開始の場合は、1限から平常通り

・ 午前10時00分までに運行開始の場合は、3限から平常通り

・ 午前10時00分を過ぎても不通の場合は、全時限休講とします。

B. 暴風警報または暴風雪警報が発令された場合

千葉県全域もしくは千葉県北西部に出された場合は、休講とします。なお、対象となる警報は上記の2つに限り、大雨警報等は含まないので注意してください。ただし、警報が解除された場合の授業の取り扱いは、次の通りとします。

・ 午前6時00分までに解除の場合は、1限から平常通り

・ 午前10時00分までに解除の場合は、3限から平常通り

・ 午前10時00分を過ぎても解除されなかった場合は、全時限休講とします。

上記AまたはBの場合、大学の電話回線は緊急対応専用としますので、学生は大学へ電話で問い合わせはせず、以下の本学ホームページで確認してください。

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/>

C. 自然災害や大規模な事故の発生などで学長が必要と判断した場合

上記AまたはBに該当しない場合でも、大規模な自然災害や事故等が発生した場合、これらの取り決めに関わらず、学長が休講を必要と判断した場合には、休講措置をとることがあります。

【注意】

- ・授業最終週に上記の措置が講じられた場合は、定期試験の取り扱いについては別途掲示等で連絡します。
- ・上記交通機関または地域以外で不通・暴風警報等の影響を受けた学生は、科目担当教員に、遅延証明等を提示した上で、その旨を申し出てください。

4. 補 講

授業が休講になった場合、補講を行う場合があります。学生用ポータルサイト（UNIPA）の掲示で連絡するので注意してください。

5. 出席管理システム

授業の出席確認は、出席管理システムによって行います。原則すべての授業で担当教員の指示により各自のスマートフォンなどから出席を登録します。登録された内容は、授業時間終了時刻後に学生自身がスマートフォンなどで確認できます。毎回の授業終了後すぐに、出席状況が正しく登録されているかどうか、各自で確認してください。

6. 出席基準について

開講するすべての科目について、単位修得の前提条件として授業回数の3分の2以上の出席が必要です。欠席の理由を問わず、出席回数が満たない場合は単位修得に必要な学修量が不足となり、レポート・課題・期末試験（受験資格を喪失）等の結果を問わず不合格となります。

- ・週1コマ（全15回）授業：6回以上の欠席は不合格

※グローバル・チャレンジ・ターム（全16回）の授業についても、6回以上の欠席は不合格

- ・週2コマ（全30回）授業：11回以上の欠席は不合格

なお、学部・学科や各教員の方針により、上記と異なる基準を設け、ガイダンスやシラバス、及び初回授業にて周知する場合は、それに従うこととします。

グローバル・リベラルアーツ学部では、実践参加型の「演習科目」について、通常より厳しい出席基準を設けています。

- ・アカデミック・スキルズⅠ：2回以上の欠席は不合格
- ・アカデミック・スキルズⅡ、講読演習、研究演習Ⅰ・Ⅱ：4回以上の欠席は不合格
- ・研究演習Ⅲ：7回以上の欠席は不合格

7. 遅刻／早退の取り扱い

授業開始後20分以内に出席した場合は「遅刻」、授業終了前20分以内に退席した場合は「早退」とし、それよりも遅い出席／早い退席は欠席の扱いとします。「遅刻」・「早退」は合計3回で欠席1回の扱いとします。

8. 欠席の取り扱い

授業においては毎回の出席が要求されますが、授業を欠席する（した）場合は、すみやかに授業時に直接担当教員に欠席理由等を報告してください。「公欠」に該当しない事由で授業を欠席した場合は、理由を問わず欠席扱いとなります。なお、定期試験については別に定めます。

公欠：次の場合に限って、所定の手続きを経ることで欠席回数から除外します。

- (1) 学校感染症による出席停止（メディカルセンター）
- (2) 裁判員制度による欠席（教務部）

1) 「公欠」学校感染症による出席停止

学校感染症は、基本的に次ページの「学校感染症の種類と出席停止の基準」に明記された疾患です。学校感染症と診断された場合は、日本の法律によって他者への感染予防の為に出席停止となる期間があります。

学校感染症に診断された場合の大学への連絡方法や出席停止となる期間は、疾患により異なります。詳細は学生用ポータルサイト（UNIPA）で確認してください。

授業が無い期間も、学内発生状況把握の為、大学へ連絡してください。

2) 「公欠」裁判員制度による欠席

裁判員制度により、学生が裁判員候補者として選任手続きのため裁判所に出頭したり、裁判員、補充裁判員として職務に従事するために授業を欠席した場合は、所定の手続きを行うことにより「公欠」として取り扱います。手続き方法は以下の通りです。

- ① 「出頭命令書」（裁判所発行）と、欠席した科目ごとに必要事項を記入した「裁判員制度による「公欠」の確認書」（以下「確認書」）を教務部に提出する。

提出期限：裁判員候補者として出頭した場合＝選任手続き期日後1週間以内

裁判員、補充裁判員として職務に従事した場合＝公判終了後1週間以内

※「確認書」は学生用ポータルサイト（UNIPA）よりダウンロードして必要枚数を用意すること

- ② 教務部が確認印を押した「確認書」を学生へ交付する。
- ③ 学生本人が「確認書（教務部確認印付）」の原本を教員に提出する。

学校感染症の種類と出席停止の基準（学校保健安全法施行規則第18条、第19条による）

種別	疾 患 名	出席停止の基準
第 1 種	エボラ出血熱 クリミア・コンゴ出血熱 痘そう 南米出血熱 ペスト マールブルグ病 ラッサ熱 急性灰白髄炎 ジフテリア 重症急性呼吸器症候群（SARS） 中東呼吸器症候群（MERS） 特定鳥インフルエンザ	治癒するまで
	新型インフルエンザ等感染症 指定感染症 新感染症	
第 2 種	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	発症後 5 日を経過し、かつ、症状軽快後 1 日を経過するまで
	インフルエンザ （特定鳥インフルエンザを除く）	発症後 5 日を経過し、かつ、解熱後 2 日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで、または 5 日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹	解熱後 3 日を経過するまで
	流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹発現後 5 日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風疹	発しんが消失するまで
	水痘	すべての発しんが痂皮化するまで
	咽頭結膜熱	主要症状消退後 2 日を経過するまで
	結核	医師が感染のおそれがないと認めるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	医師が感染のおそれがないと認めるまで
第 3 種	コレラ 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸チフス パラチフス 流行性角結膜炎 急性出血性結膜炎	医師が感染のおそれがないと認めるまで
	【その他の感染症】 ※	

※第 3 種【その他の感染症】は、学校で通常見られないような重大な流行が起こった場合に、その感染拡大を防ぐために、必要がある時に限り、学校医の意見を聞き、校長が第 3 種の感染症として緊急措置をとることができるもの

Ⅳ 卒業の要件

1. 卒業要件

本学部を卒業するためには、4年以上在学し、各科目群で定めた授業科目・単位数の要件を満たさなければならないほか、1年次前期の短期留学と3年次後期の長期留学が必修となっています。

本学部で卒業に要する単位数は、129単位です。

卒業要件単位一覧

科目区分		単位数		備 考
外国語科目	英 語 科 目	必 修	21	
		選択必修	6	
	選 択 外 国 語 科 目	選択必修	2	
G L A 基 礎 科 目		必 修	17	
基礎教養科目	A群(一般教養科目群)	選択必修	8	
	B群(デジタル・リテラシー科目群)	選択必修	6	
専門教養科目	H u m a n i t i e s 人 間 と 文 化	選択必修	14	
	S o c i e t i e s 社 会 と 共 生			
	G l o b a l S t u d i e s グローバル・スタディーズ			
留 学 科 目		必 修	16	
演 習 科 目	基 礎 演 習	必 修	3	
	講 読 演 習	選択必修	6	
	研 究 演 習	必 修	12	卒業研究4単位含む
自 由 選 択 科 目			18	
計			129	

2. 学 位

4年以上在学し、卒業要件を満たした学生は、学位「学士（グローバル・リベラルアーツ）」が与えられます。

3. 卒業発表

学期末に掲示（Web）をもって行います。定められた期間内に必ず本人が確認してください。

4. 9月卒業

イ. 4年次生として1年を超えて在学し、卒業要件単位を修得できなかった学生を対象に、9月（前期終了時）卒業制度が適用されます。

ロ. 前期終了時点で卒業要件を満たした場合、9月15日付で卒業となります。ただし、夏期集中講義科目の単位は9月卒業の卒業要件単位に算入することはできませんので前期の履修登録の際には注意してください。

ハ. 9月卒業該当者で、3月卒業を希望する人は、前期履修登録時に「3月卒業申請書」を教務部へ提出して手続きを行ってください。（手続きを行わない場合は、前期終了時に卒業要件を満たしていれば自動的に9月卒業となります。）

V 進級基準について

グローバル・リベラルアーツ学科においては、1～2年次に定められた科目の修得を3年次進級の基準とします。進級基準を満たすことができなかった場合は留年となり、翌年度に未修得科目を履修し、すでに修得した単位を含めて進級基準を満たさなければなりません。

ア. 進級基準対象となる科目の詳細は、以下の表を参照してください。

イ. 学則第3条の規定により、2年次における留年は1回限りとします。2回目の留年をすると退学手続きをしなければ除籍となるので、注意してください。

ウ. 進級基準は3年次への進級のみとし、それ以外の年次については基準を設けません。

エ. 進級発表は、学年末に掲示（Web）をもって行います。定められた期間内に、必ず本人が確認してください。

【グローバル・リベラルアーツ学科】

	授 業 科 目	単位数	進級条件
			2年→3年
1年次	Academic Reading (a)	1	21単位中 11単位 以上修得
	Academic Reading (b)	2	
	Academic Writing (a)	1	
	Academic Writing (b)	2	
	Academic Discussions & Presentations (a)	1	
	Academic Discussions & Presentations (b)	2	
	English for Global Discovery	2	
	Self-Directed Learning	1	
	TOEFL ITP 演習	1	
2年次	Critical Reading (a)	2	2単位修得
	Critical Reading (b)	2	
	Advanced Writing (a)	2	
	Advanced Writing (b)	2	
	研究演習 I	2	

Ⅵ 単位と時間数

1. 単位制度

単位とは、個々の科目の学修量を示す基準であり、大学での学修はすべて単位制となっています。すべての授業科目には一定の単位が定められており、その科目の履修登録を行い、授業を受け、かつ試験その他の方法により合格と判定された場合、単位が与えられます。

それぞれの授業科目に与えられている単位を一定の基準に従って修得し、修得単位の合計が学則に定められた卒業要件単位数を満たせば卒業の資格が与えられます。

2. 単位と時間数

イ. 1学年は前期・後期の2学期に分かれています。各学期は原則として15週で1学期、30週で1学年としています。

ロ. 1単位は原則として、教室の内外合わせて45時間の学修に対して与えられます（教室内の授業時間＋自学自習の時間）。したがって、1週につき教室内外3時間・15週をもって1単位とします。ただし、本学においては授業時間割の1/2時限（45分）を1時間とみなし、1時限は2時間とみなします。

ハ. 単位は科目の性質によって次のように分類されます。

授業時間	学修時間	内 訳	
		授業（教室内）	自学自習（教室外）
GLA基礎科目 基礎教養科目 専門教養科目 演習科目	45時間 （毎週3みなし時間(135分)） ×15週	15時間 （毎週1みなし時間(45分)） ×15週	30時間 （毎週2みなし時間(90分)） ×15週
外国語科目		30時間 （毎週2みなし時間(90分)） ×15週	15時間 （毎週1みなし時間(45分)） ×15週

Ⅶ 履修登録単位数の上限・「卒業見込証明書」の発行

1. 各学年における履修登録単位数の上限について

本学部における履修登録単位数の上限は、1年次後期～3年次前期は22単位、4年次前期・後期は30単位とします。これは少数の授業科目をより深く実質的に学修してもらうことをねらいとするものです。ただし、例外等については下記の【履修登録上限単位数に関する注意点】を参照してください。

	前期履修登録	後期履修登録
1年次	必修のみ（14単位）	22単位
2年次	22単位	22単位
3年次	22単位	（16単位）
4年次	30単位	30単位

【履修登録上限単位数に関する注意点】

- ① 夏期集中講義科目の履修登録は、前期登録単位数に数えるものとします。
- ② 春期集中講義科目の履修登録は、後期登録単位数に数えるものとします。
- ③ 通年科目の履修登録は、前期登録単位数と後期登録単位数に2分割して数えるものとします。
- ④ 入学前及び留学先で修得した科目の認定単位は、履修登録上限単位数から除外します。
- ⑤ 半期の休学により、1年次の前期又は後期に複数回在籍する場合は、1年次の未修得の必修科目に加え、基礎教養科目（A群）を1年次の履修登録上限単位数まで履修登録可能とします。
- ⑥ 前学期のGPAが3.2以上の成績優秀者は、履修登録時に履修登録上限単位数を超えて履修登録できるものとします。
（夏季集中講義科目のGPAは前期分として加算されますが、一部科目を除き成績評価の発表が後期開始後であるため上限単位数免除の計算外とします。）
- ⑦ Effective Learning Module IIは履修登録上限単位数から除外します。
P30. 【自由選択科目 Effective Learning Module II】を参照

2. 「卒業見込証明書」の発行について

3年次終了までに80単位以上を修得している者に対して、「卒業見込証明書」を発行します。
就職活動等で必要とされるので、十分注意して履修計画を立ててください。

グローバル・リベラルアーツ 学科				1年次						2年次						3年次						4年次						卒業要件単位数	
				前期(グローバル・チャレンジ・ターム)※1						後期		前期				後期		前期		後期		前期		後期					
				第1ターム		第2ターム						授業科目		単位												授業科目			
外国語科目	英語科目	必修	Academic Reading (a)	1	グローバル・ディスカバリー (フィールドワーク)		Academic Reading (b)	2	Critical Reading (a)	2	Critical Reading (b)	2	長期留学 (SUNY)	〈達成目標〉 卒業時までにはTOEFL ITP 580点 (TOEFL iBT 92点相当) を取得できるように努める。	21単位	27													
			Academic Writing (a)	1		Academic Writing (b)	2	Advanced Writing (a)	2	Advanced Writing (b)	2																		
			Academic Discussions & Presentations (a)	1		Academic Discussions & Presentations (b)	2	※2 1年次前期末までにTOEFL480点以上を修得した学生は、単位認定の上履修免除する																					
			English for Global Discovery			2	TOEFL ITP 演習 ※2		1																				
			Self-Directed Learning (オンライン科目)			1	TOEFL ITP480 (TOEFL iBT54相当) の取得を目標とする。																						
	3年への進級基準 (2つの条件の両方を満たすこと) : ①1,2年次英語必修科目21単位のうち11単位以上を修得 ②研究演習Ⅰ (2単位) を修得																												
	選択必修	以下の科目から6単位修得すること 【履修年次2～4年】 English for GLAⅠ 2単位 English for GLAⅡ 2単位 English for GLAⅢ 2単位 English for GLAⅣ 2単位 English for GLAⅤ 2単位												6単位															
	選択外国語科目	選択必修	選択外国語Ⅰ (a)を2単位 每学期前期に開講 中国語、スペイン語、韓国語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語、アラビア語、ポルトガル語、ベトナム語、インドネシア語、タイ語												2単位		2												
GLA基礎科目		必修	グローバル・ディスカバリーⅠ	1	グローバル・ディスカバリーⅡ	1	グローバル・ヒストリーⅠ (週1回)	2	グローバル・ヒストリーⅡ (週1回)	2	グローバル・キャリア	2	17単位		17														
			グローバル・リベラルアーツ入門Ⅰ	1	グローバル・ディスカバリー (フィールドワーク)	4	グローバル・リベラルアーツ入門Ⅱ	2	キャリアデザイン (GLA)	2																			
基礎教養科目		A群	選択必修	一般教養科目群 (外国語学部と共通開講)		人文科学分野: 歴史学Ⅰ、歴史学Ⅱ、哲学Ⅰ、哲学Ⅱ、倫理学Ⅰ、倫理学Ⅱ、宗教学Ⅰ、宗教学Ⅱ、文学Ⅰ、文学Ⅱ、美術史学Ⅰ、美術史学Ⅱ、言語学Ⅰ、言語学Ⅱ、心理学Ⅰ、心理学Ⅱ、教育学 社会科学分野: 社会学Ⅰ、社会学Ⅱ、法学Ⅰ、法学Ⅱ、憲法Ⅰ、憲法Ⅱ、政治学Ⅰ、政治学Ⅱ、経済学Ⅰ、経済学Ⅱ、経営学Ⅰ、経営学Ⅱ、統計学Ⅰ、統計学Ⅱ 自然科学分野: 化学Ⅰ、化学Ⅱ、物理学Ⅰ、物理学Ⅱ、生物学Ⅰ、生物学Ⅱ、自然科学概論Ⅰ、自然科学概論Ⅱ :各2単位										8単位		14											
						デジタル・リテラシー科目群 【履修年次1年後期～4年】 数的思考法、デジタル・シチズンシップ論 【履修年次2～4年】 データサイエンス概論、コンピュータ・サイエンス概論 【履修年次3～4年】 ビッグデータ解析論、エビデンスと評価 :各2単位										6単位													
専門教養科目			選択必修			Humanities (人間と文化) 宗教文化論Ⅰ、宗教文化論Ⅱ、芸術文化論Ⅰ、 芸術文化論Ⅱ、人間と文学、人間と思想、 世界近現代史、文化人類学 Societies (社会と共生) 共生社会論、社会と多様性Ⅰ、社会と多様性Ⅱ、 社会とサステナビリティ、現代社会とイノベーション、 Language, Culture and Communication、 デジタル・メディアと社会、多文化共生コミュニケーション Global Studies (グローバル・スタディーズ) グローバル・ガバナンスⅠ、グローバル・ガバナンスⅡ、 地域とグローバル世界Ⅰ、地域とグローバル世界Ⅱ、 グローバル平和論、国際法、Law and Institutions in Global Society、 国際開発論 :各2単位										14単位		14											
留学科目		必修													SUNY		16	16単位		16									
演習科目	基礎	必修	アカデミック・スキルズⅠ	1			アカデミック・スキルズⅡ		2													3単位	3						
	講読	選択必修					Humanities (人間と文化) 講読 (宗教文化)、講読 (芸術文化)、 講読 (文学/思想)、講読 (歴史) Societies (社会と共生) 講読 (社会と多様性)、講読 (社会とサステナビリティ)、 講読 (現代社会とイノベーション)、講読 (多文化共生コミュニケーション)								Global Studies (グローバル・スタディーズ) 講読 (グローバル・ガバナンス)、講読 (地域とグローバル世界)、講読 (グローバル平和論) :各2単位		6単位		6										
	研究	必修							研究演習Ⅰ		2	研究演習Ⅱ		2	研究演習Ⅲ		4	12単位		12									
																	卒業研究 (キャップストーン・プロジェクト)		4										
自由選択科目			1) 上記にある選択必修科目のうち、「卒業要件単位数を超えた単位」は自由選択科目とする 2) 外国語学部の下記科目を自由選択科目として履修できる (詳細はp.30参照) 【履修年次 1年後期～4年】 [外国語学部 英語科目] ・時事英語Ⅰ・Ⅱ、ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ ・ELLCⅡ、ELMⅡ ・TOEIC科目全般 ・TOEFL科目全般 (TOEFL ITP480演習A、Bの外国語学部1年次指定クラスは除く) [外国語学部 研究科目] ・研究科目全般 [外国語学部 自由選択科目] ・キャリア科目全般 ・選択外国語Ⅰ (b)・Ⅱ・Ⅲ ・トライ外国語 ・トライ・ことばと文化 検定試験 (外国語)												18単位		18												
履修登録上限単位数			必修のみ (14単位)				22単位		22単位		22単位		22単位		(16単位)		30単位		30単位		合計129単位								

※1 1年次前期は「グローバル・チャレンジ・ターム」となっており、約3週間の短期留学である海外スタディ・ツアーを基軸に、前半8週、後半8週での合計16週で、大学4年間における学びを方向付ける期間となっている。
: 海外留学期間

VIII 授業科目について

1. 履修上の注意

イ. 授業科目の履修にあたっては、履修年次に注意してください。

「履修年次」欄の「1 前」という表記は、1 年次の前期に、「1 後」は、1 年次後期に、「2・3・4 前」は2 年次・3 年次・4 年次の前期に履修できるということを示しています。

ロ. 必修・選択必修・選択について十分注意してください。

前ページの折り込み表は、本学部のカリキュラムをまとめたものです。履修にあたっては、このカリキュラム表と、「3. 授業科目の紹介」を参照してください。

2. 科目ナンバリングについて

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付して分類し、学修段階や順序を整理し、教育課程をより体系的に理解するためのツールです。履修科目を選択する際などに活用してください。

(1) 科目ナンバリングの付番原則

例) Academic Reading (a) の科目ナンバー

ENG 1 33

科目区分コード 授業レベル 管理上の通し番号

(2) コードの詳細

(2)-1. 科目区分コード

科 目 群		科 目 区 分 コ ー ド
外国語科目	英語科目	ENG
	選択外国語科目	ElectiveのE +各言語の国コード2桁 (JISコード)
GLA基礎科目		分野・教科により付与 (HIS、SOC、COMなど)
基礎教養科目	A群	
	B群	
専門教養科目	Humanities (人間と文化)	
	Societies (社会と共生)	
	Global Studies (グローバル・スタディーズ)	
演習科目	基礎演習	
	講読演習	
	研究演習	SEM
	卒業研究	GRA

(2)－ 2. 授業レベル

コード	レベル	身につく能力	主な科目
100番台	入 門	入門的・初歩的な知識を修得し、幅広い視野を得る	GLA基礎科目・基礎教養科目A群
200番台	初 級	各学問分野における基礎的な知識を修得する	専門教養科目
300番台	中 級	実践的・専門的に高度な内容を扱い、専門的知識を修得する	演習科目（講読演習）
400番台	上 級	専門領域の演習や研究を通じて、専門知識を総合的に活用する力を身につける	演習科目（研究演習Ⅲ）・卒業研究

3. 授業科目の紹介

(1) 外国語科目

① 英語科目〔GLA学部設置科目〕

英語運用能力の養成に力を注ぎ、オンライン授業を活用しつつ、順次性のある体系的な教育課程を編成します。GLA学部では、2回の留学を念頭に置き、英語4技能（「聞く（listening）」、「読む（reading）」、「話す（speaking）」、「書く（writing）」）修得のための授業に加え、コンテンツ・ベースの英語科目（CLIL）を開講します。CLILは、海外留学の準備として、さまざまな専門分野の入門レベルの内容を英語で学ぶ科目です。

<履修についての注意>

- ・必修の英語科目は、あらかじめクラスが指定されます。
- ・再履修時には、希望するクラスの担当教員にあらかじめ履修許可を取ってください。
- ・各科目で、前期(a)で単位修得できなかった場合でも後期(b)を履修することができます。その場合は、未修得科目を次の年度以降に再履修する必要があります。翌年度に必修科目と再履修科目が重複した場合は、他区分の科目との重複の場合も含め、下の学年の必修科目を優先して履修してください。
- ・TOEFL ITP 演習（1年次後期、必修1単位）では、TOEFL ITP 500点（TOEFL iBT 61点相当）の取得を目指します。
- ・卒業時まで、TOEFL ITP 580点（TOEFL iBT 92点相当）を取得できるように努めます。
- ・卒業要件としての単位は、27単位です。

なお、ディプロマ・ポリシーで掲げる修得すべき知識・能力・態度のうち、高度な英語運用能力に対する卒業時の到達目標を以下の通り定めています。

1. Comprehension（理解）

自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、現代社会や専門分野のトピックについて、話者の意図を理解することができる。自分の専門分野の論文や資料、もしくは記事やレポートなどのやや複雑な文章を一読し、文章の重要度を判断することができる。綿密な読みが必要と判断した場合は、読む速さや読み方を変えて、正確に読むことができる。

2. Speaking and Presentation（表現）

一般的な分野から、文化、学術などの専門的な分野まで、幅広いトピックの会話に積極的に参加し、自分の考えを正確かつ流暢に表現することができる。要点とそれに関連する詳細の両方に焦点を当てながら、流暢にプレゼンテーションができ、また、あらかじめ用意されたテキストを参考に、聴衆が興味のある点に対応してプレゼンテーションの内容を自分なりに調整し、流暢に容易に表現できる。

3. Writing (文章作成)

自分の専門分野や関心のある事柄であれば、複雑な内容を含む報告書や論文などを、原因や結果、仮定的な状況も考慮しつつ、明瞭かつ詳細な文章で書くことができる。

これらの目標を達成するうえでの数量的到達目標を下表の通り定めています。

	TOEFL ITP/iBT 基準値	TOEFL ITP/iBT 目標値	CEFR 対照
入 学 時	460 / 48	480 / 54	
1 年次終了	480 / 54	500 / 61	B1
2 年次終了	530 / 68	550 / 80	B1 ~ B2
卒 業 時	580 / 92	600 / 100	B2 ~ C1

- ・基準値とは、当該時点で最低限達成することが望ましいスコアである。
- ・3年次後期のSUNYへの留学においては、出願時（2年次後期時点）に、TOEFL ITP 550点程度が求められる。

なお、出願時にTOEFL ITP 550点に満たない場合は、留学先の選択肢が限定されることがあり、TOEFL ITP 530点に満たない場合は、学部留学ではなく、語学コースへの留学となることがある。

② 選択外国語科目 [外国語学部との共通科目]

選択外国語科目は、12の言語（中国語、スペイン語、韓国語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語、アラビア語、ポルトガル語、ベトナム語、インドネシア語、タイ語）が開講されています。12の言語とも、I (a)、I (b)、II (a)、II (b)が設定されています。年度によって開講状況が異なることがありますので、最新のシラバスや時間割を確認してください。また、履修希望者の多い一部の言語にはⅢ (a)、Ⅲ (b)が設定されています。科目の詳細は以下の通りです。

	難易度	開講期	授業回数	科目区分	単位数	備考
I (a)	初級	前期	週 2 回	選択必修	各 2	任意の 1 言語を選択し、2 単位を修得
I (b)	初級	後期	週 2 回	選択	各 2	
II (a)	中級	前期	週 1 回	選択	各 1	(a)(b)各 2 単位、最大で 4 単位を修得
II (b)		後期				
III (a)	上級	前期				(a)(b)各 4 単位、最大で 8 単位を修得
III (b)		後期				

(履修モデル)

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
①標準モデル		I (a)、I (b)	(後期留学)	
②発展モデル	履修不可	I (a)、I (b)	(後期留学)	II (a)、II (b)

イ. 卒業必修単位としての選択外国語 I (a) の履修について

- ① 2年次以降1つの言語を選択し、I (a) 2単位を修得しなければなりません。
- ② 後期科目の I (b)を継続して履修したい場合は、自由選択科目となります。
- ③ 4年次前期で選択外国語 I (a) が不合格だった場合、卒業再試験の対象となります。
- ④ 選択外国語 I は、週 2 回授業があります。

ロ. 選択外国語Ⅱについて

- ① 選択外国語Ⅱは、Ⅰの続きです。Ⅱ(a)、Ⅱ(b)の履修には同じ言語のⅠ(a)及びⅠ(b)を履修済でなければなりません。同じ言語のⅠとⅡを同時に履修することはできません。
- ② 選択外国語Ⅱは3年次以降、前・後期とも2単位まで履修することができます。クラスは指定されていないので、各自クラスを選び、登録してください。登録希望者が多い場合は人数調整を行う場合もあります。
- ③ Ⅱ(a)→Ⅱ(b)の順で履修することが望ましいですが、Ⅱ(a)を履修していなくてもⅡ(b)を履修することができます。Ⅱ(a)、Ⅱ(b)共に2単位（2回）まで履修できます。

ハ. 選択外国語Ⅲについて

選択外国語Ⅲは、中国語、スペイン語、韓国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語が開講されています（年によって開講状況が異なることがありますので、最新のシラバス・時間割で確認をしてください）。Ⅰを4単位、かつ、Ⅱ(a)またはⅡ(b)を1単位以上、修得すれば履修可能です。前・後期とも4単位まで履修可能で、Ⅲ(a)を履修しなくてもⅢ(b)を履修することができます。

ニ. 選択外国語科目（Ⅱ及びⅢを履修する際の）飛び級制度

- 1) 下記の条件を満たしている者は、それぞれの選択外国語のⅠ(a)・Ⅰ(b)、Ⅱ(a)・Ⅱ(b)を飛ばして、Ⅱ(a)・Ⅱ(b)、Ⅲ(a)・Ⅲ(b)に飛び級して履修することができます。

Ⅰ(a)・Ⅰ(b) の飛び級	言 語	内 容
	中国語	中国語検定試験4級以上 または 漢語水平考試（HSK）3級以上
	スペイン語	スペイン語技能検定6級以上
	韓国語	ハングル能力検定試験4級以上 または 韓国語能力試験2級以上
	インドネシア語	インドネシア語技能検定D級以上
	ポルトガル語	CAPLE入門（ACCESSO）A以上 または Celpe Bras 中級以上
	フランス語	実用フランス語技能検定4級以上
	ドイツ語	ドイツ語技能検定4級以上
	イタリア語	実用イタリア語検定4級以上

Ⅱ(a)・Ⅱ(b) の飛び級	言 語	内 容
	中国語	中国語検定試験3級以上 または 漢語水平考試（HSK）4級以上
	スペイン語	スペイン語技能検定5級以上、DELE A1以上、STELE A1以上
	韓国語	ハングル能力検定試験3級以上 または 韓国語能力試験3級以上
	フランス語	実用フランス語技能検定3級以上、TCF レベル1以上、DELTA A1以上
	ドイツ語	ドイツ語技能検定3級以上
	イタリア語	実用イタリア語検定3級以上

- 2) 学生は選択外国語ⅡまたはⅢの最初の授業でスコアのコピーを持参し、担当教員から履修の許可を得て、履修することになります。
- 3) 学生は履修登録期間に、スコアのコピーを教務部に提出し、登録の申請を行ってください。
- 4) 上記の条件を満たしていない場合でも、特例措置として飛び級を認めることがあります。必ず履修要件を確認した上で、担当教員の履修許可を得てから、履修登録期間に登録の申請を行ってください。

【注意】

- ① 飛び級するⅠまたはⅡの単位認定は行いません。
- ② 選択外国語Ⅰを飛び級してⅡを履修した場合、卒業要件単位（Ⅰ(a)）は、その他の言語の選択外国語Ⅰで修得する必要があります。

ホ. 「トライ・外国語」・「トライ・ことばと文化」

言語と文化の入門的な体験ができる「トライ・外国語」を自由選択科目として、夏・春休みの集中講義により開講します。12の選択外国語以外の言語についても「トライ・ことばと文化」として開講しています。詳しくは「(7) 自由選択科目」を参照してください。

(2) GLA基礎科目【GLA学部設置科目】

本学部での学びの基礎として、以下の必修科目を1年次、2年次前期及び3年次前期に履修します。

＜履修についての注意＞

- ・再履修時には、希望するクラスの担当教員にあらかじめ履修許可を取ってください。
- ・GLA基礎科目、外国語科目等の必修科目で単位修得ができなかった場合、翌年度以降に再履修してください。翌年度に必修科目と再履修科目が重複した場合は、他区分の科目との重複の場合も含め、下の学年の必修科目を優先して履修してください。

【GLA基礎科目】

科目名	履修年次	単位数	ナンバリング 分野・レベル	必要単位数
グローバル・ディスカバリーⅠ	1前	1	BAS 1	【必修】 17単位を修得
グローバル・ディスカバリーⅡ	1前	1	BAS 1	
グローバル・ディスカバリー (フィールドワーク)	1前	4	BAS 1	
グローバル・リベラルアーツ入門Ⅰ	1前	1	BAS 1	
グローバル・リベラルアーツ入門Ⅱ	1後	2	BAS 1	
グローバル・ヒストリーⅠ	1後	2	HIS 1	
グローバル・ヒストリーⅡ	2前	2		
キャリアデザイン (GLA)	2前	2	SOC 1	
グローバル・キャリア	3前	2	SOC 2	

(3) 基礎教養科目【A群：外国語学部との共通科目、B群：GLA学部設置科目】

- ① A群一般教養科目群では、人類が長い年月をかけて体系化してきた＜知の集積＞である多様な学問に触れて、それぞれの学問が人間や社会、自然をどのように捉え、理解しようとしてきたのかについて学びます。具体的には、人文科学分野（「哲学」、「美術史学」等）、社会科学分野（「経済学」、「法学」等）、自然科学分野（「自然科学概論」、「生物学」等）の科目を設定しています。

＜履修についての注意＞

- ・本学部の学生は、1年次後期から履修できます。
- ・この科目群から8単位を修得してください。

- ② B群デジタル・リテラシー科目群は、現在及び将来において求められるデジタル技術とデータを適切かつ効果的に活用するために必要な能力を身につけるための科目群です。「数的思考法」、「デジタル・シチズンシップ論」、「データ・サイエンス概論」、「コンピュータ・サイエンス概論」、「ビッグデータ解析論」、「エビデンスと評価」という科目で構成されています。

＜履修についての注意＞

- ・1年次後期から履修できます。ただし、「データ・サイエンス概論」及び「コンピュータ・サイエンス概論」は2年次から、「ビッグデータ解析論」及び「エビデンスと評価」は3年次から履修できます。
- ・この科目群から6単位を修得してください。
- ・履修する順序の指定はありません。難易度は、科目ナンバリング（*）で確認してください。
- ・4年次後期に履修できるのは最大で4単位であるため、4年次前期までに最低2単位を修得してください。

*授業科目ごとに学修段階や順序を整理した番号のことです。「Ⅷ 授業科目について 2. 科目ナンバリングについて」を参照してください。

【基礎教養科目】

科目 区分	科目名	履修年次	単位数	ナンバリング 分野・レベル	必要単位数
A 群	歴 史 学 I	2・3・4前	2	HIS 1	【選択必修】 左記の科目から少 なくとも4科目8 単位を修得
	歴 史 学 II	1・2・4後	2	HIS 1	
	哲 学 I	2・3・4前	2	PHI 1	
	哲 学 II	1・2・4後	2	PHI 1	
	倫 理 学 I	2・3・4前	2	PHI 1	
	倫 理 学 II	1・2・4後	2	PHI 1	
	宗 教 学 I	2・3・4前	2	PHI 1	
	宗 教 学 II	1・2・4後	2	PHI 1	
	文 学 I	2・3・4前	2	LIT 1	
	文 学 II	1・2・4後	2	LIT 1	
	美 術 史 学 I	2・3・4前	2	ART 1	
	美 術 史 学 II	1・2・4後	2	ART 1	
	言 語 学 I	2・3・4前	2	LIN 1	
	言 語 学 II	1・2・4後	2	LIN 1	
	心 理 学 I	2・3・4前	2	PSY 1	
	心 理 学 II	1・2・4後	2	PSY 1	
	教 育 学	2・3・4前	2	PED 1	
	社 会 学 I	2・3・4前	2	SOC 1	
	社 会 学 II	1・2・4後	2	SOC 1	
	法 学 I	2・3・4前	2	LAW 1	
	法 学 II	1・2・4後	2	LAW 1	
	憲 法 I	2・3・4前	2	LAW 1	
	憲 法 II	1・2・4後	2	LAW 1	
	政 治 学 I	2・3・4前	2	POL 1	
	政 治 学 II	1・2・4後	2	POL 1	
	経 済 学 I	2・3・4前	2	ECO 1	
	経 済 学 II	1・2・4後	2	ECO 1	
	経 営 学 I	2・3・4前	2	BUS 1	
	経 営 学 II	1・2・4後	2	BUS 1	
	統 計 学 I	2・3・4前	2	BIN 1	
	統 計 学 II	1・2・4後	2	BIN 1	
	化 学 I	2・3・4前	2	CHE 1	
	化 学 II	1・2・4後	2	CHE 1	
	物 理 学 I	2・3・4後	2	PHY 1	
	物 理 学 II	1・2・4後	2	PHY 1	
	生 物 学 I	2・3・4前	2	BIO 1	
	生 物 学 II	1・2・4後	2	BIO 1	
	自 然 科 学 概 論 I	2・3・4前	2	MED 1	
	自 然 科 学 概 論 II	1・2・4後	2	MED 1	
B 群	数 的 思 考 法	2・3・4前	2	BIN 1	【選択必修】 左記の科目から少 なくとも3科目6 単位を修得
	デジタル・シチズンシップ論	2・3・4前	2	BIN 1	
	データ・サイエンス概論	2・4後	2	BIN 2	
	コンピュータ・サイエンス概論	2・4後	2	BIN 2	
	ビ ッ グ デ ー タ 解 析 論	3・4前	2	BIN 3	
	エ ビ デ ン ス と 評 価	3・4前	2	BIN 3	

※後期に開講する科目は、1年次、2年次及び4年次に履修可能である。

※Ⅰの科目が後期に、Ⅱの科目が前期に開講されることがある。

(4) 専門教養科目【GLA学部設置科目】

「Humanities（人間と文化）」「Societies（社会と共生）」「Global Studies（グローバル・スタディーズ）」の3分野の科目群から14単位が選択必修となります。

＜履修についての注意＞

- ・1年次後期から履修できます。

Humanities 人間と文化

文学、宗教、歴史、思想をはじめとしたさまざまな文化的営みについて幅広い知識を修得し、多様な世界観・価値観に対する柔軟な思考と、自己の文化を相対化して考えることのできる視点を身につけます。また、人々が古来よりこの世界や人間の幸福をどのように考えてきたのかについて学び、それらの知恵をどのように私たちの人生と社会に活かしていくことができるのかを考えます。

Societies 社会と共生

グローバル化が進み多様な人々が共生する社会となったいま、相反する常識や価値観をもって社会を形成する方法論や、常識が常識でなくなった時、社会がどのような姿を見せるのかを学びます。またAIやバーチャルリアリティ、その他の科学技術が急発展することにより社会はどのように変容するのか、社会はどのような科学技術にどう接すればよいのかなどを広く学びます。

Global Studies グローバル・スタディーズ

国を越えて、世界全体が抱えている諸問題について、いま何が起きているのか、その本質を見究める力とそれを解決するための手法を学びます。さまざまな分野で重要な役割を担っているIGO（国際機関）やNGO（非政府組織）をはじめ、国と国、国と地域がいかにして手を取り合い、理想の世界をめざしていけばよいのか、そのための知識・教養を身につけます。

【専門教養科目】

分野	科目名	履修年次	単位数	ナンバリング 分野・レベル	必要単位数
HUM	宗教文化論Ⅰ	2・3・4前	2	PHI 2	【選択必修】 左記の科目から少なくとも7科目14単位を修得
	宗教文化論Ⅱ	1・2・4後	2	PHI 2	
	芸術文化論Ⅰ	1・2・4後	2	ART 2	
	芸術文化論Ⅱ	2・3・4前	2	ART 2	
	人間と文学	2・3・4前	2	LIT 2	
	人間と思想	1・2・4後	2	PHI 2	
	世界近現代史	1・2・4後	2	HIS 2	
	文化人類学	1・2・4後	2	ANT 2	
SOC	共生社会論	2・3・4前	2	SOC 2	
	社会と多様性Ⅰ	2・3・4前	2	SOC 2	
	社会と多様性Ⅱ	1・2・4後	2	SOC 2	
	社会とサステナビリティ	1・2・4後	2	SOC 2	
	現代社会とイノベーション	2・3・4前	2	SOC 2	
	Language, Culture and Communication	1・2・4後	2	COM 2	
	デジタル・メディアと社会	2・3・4前	2	COM 2	
	多文化共生コミュニケーション	1・2・4後	2	COM 2	
GS	グローバル・ガバナンスⅠ	2・3・4前	2	POL 2	
	グローバル・ガバナンスⅡ	1・2・4後	2	POL 2	
	地域とグローバル世界Ⅰ	2・3・4前	2	ARE 2	
	地域とグローバル世界Ⅱ	1・2・4後	2	ARE 2	
	グローバル平和論	2・3・4前	2	POL 2	
	国際法	1・2・4後	2	LAW 2	
	Law and Institutions in Global Society	2・3・4前	2	POL 2	
	国際開発論	1・2・4後	2	SOC 2	

(5) 演習科目（基礎演習、講読演習、研究演習及び卒業研究（キャップストーン・プロジェクト））

【GLA学部設置科目】

① 基礎演習

1年次の基礎演習として、「アカデミック・スキルズⅠ・Ⅱ」を通年で実施し、日本語能力の向上のほか、論理的思考と課題設定能力を育成します。

【基礎演習科目】

科 目 名	履修年次	単位数	ナンバリング 分野・レベル	必要単位数
アカデミック・スキルズⅠ	1 前	1	BAS 1	【必修】 3単位を修得
アカデミック・スキルズⅡ	1 後	2	BAS 1	

② 講読演習

2年次以降は、「講読演習」を履修し、文献の精読、発表、議論を学生主体で行うことを通じて、批判的思考力や協働探究の態度と能力を実践的に身につけます。

＜履修についての注意＞

・講読演習「講読（HUM）宗教文化」、「講読（GS）地域とグローバル世界」は、担当教員が異なる場合は、重複履修が可能です。

【講読演習科目】

分野	科 目 名	履修年次	単位数	ナンバリング 分野・レベル	必要単位数
HUM	講読（HUM）（宗教文化） ※	2 前後 3 前 4 前後	2	PHI 3	【選択必修】 左記の科目から少なくとも 3科目6単位を修得
	講読（HUM）（芸術文化）	2・4 後	2	ART 3	
	講読（HUM）（文学/思想）	2・3・4 前	2	PHI 3	
	講読（HUM）（歴史）	2・3・4 前	2	HIS 3	
SOC	講読（SOC）（社会と多様性）	2・4 後	2	SOC 3	
	講読（SOC）（社会とサステナビリティ）	2・3・4 前	2	SOC 3	
	講読（SOC）（現代社会とイノベーション）	2・4 後	2	SOC 3	
	講読（SOC）（多文化共生コミュニケーション）	2・3・4 前	2	SOC 3	
GS	講読（GS）（グローバル・ガバナンス）	2・3・4 前	2	POL 3	
	講読（GS）（地域とグローバル世界） ※	2 前後 3 前 4 前後	2	ARE 3	
	講読（GS）（グローバル平和論）	2・4 後	2	POL 3	

※担当教員が異なる場合は重複履修可

③ 研究演習・卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）

2～4年次にかけて研究演習（ゼミ）Ⅰ～Ⅲを履修します。自分が関心のあるテーマを設定し研究して、大学での学びの集大成（Capstone）として卒業研究を完成させます。

【研究演習科目】

科 目 名	履修年次	単位数	ナンバリング 分野・レベル	必要単位数
研究演習Ⅰ	2 後	2	SEM 2	【必修】 12単位を修得
研究演習Ⅱ	3 前	2	SEM 3	
研究演習Ⅲ	4 通	4	SEM 4	
卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）	4 通	4	GRA 4	

(6) 必修の海外留学について

(1) 海外スタディ・ツアー

① 概要と目的

本学部独自の取組として、「グローバル・チャレンジ・ターム」を設定しています。このタームは、本格的な学部教育がスタートする前の入学後の半年間で、自分は何のために学ぶのか、自身の能力や関心をどのように涵養していくのか、また、学んだことを社会でいかに活かし、いかに自己実現していくのかなどを、学生自身が深く考えるための期間であり、特別なカリキュラムが編制されています。

カリキュラムの中核となるのが、地域ごとに特色のあるフィールドワークを組み込んだ「海外スタディ・ツアー」（科目名「グローバル・ディスカバリー（フィールドワーク）」）です。このツアーは、1年次の6～7月に約2週間の日程で実施し、本学部の学修内容に合致するテーマについて直接的な体験を通して学ぶことが可能な地域（リトアニア、インド、エルサレム、マレーシア・ボルネオ）に学生を派遣します。学生は、各研修先で、以下を目的として構成された研修プログラムに参加します。

（ア）入学後間もない時期において、異環境下での生活・学修を体験することで、グローバルな感性、多文化共生力の涵養、新たな課題や困難に直面した際の問題解決能力の醸成を図ること

（イ）建学の理念である平和について深く学ぶこと、また、地域によっては、学校、児童養護施設などでボランティア活動を行うことにより、格差、貧困、環境、移民・難民問題などグローバル化した現代社会が抱える課題について学び、その解決に何ができるか考えること

（ウ）各国・地域ごとに、専門教養科目で学ぶ「人間と文化」、「社会と共生」、「グローバル・スタディーズ」の各分野の課題やSDGsに関連したテーマを深く学び、1年次後期からの学修の方向性や動機づけを図ること

また、関連する科目「グローバル・ディスカバリーⅠ・Ⅱ」において、事前・事後学修を行い、研修での学びを着実により深いものにします。

② 参加条件

海外スタディ・ツアー（「グローバル・ディスカバリー（フィールドワーク）」）は、事前学習及び事後学習と密接に関連したものとなっています。海外スタディ・ツアーへ参加するにあたっては、事前学習の科目（「グローバル・ディスカバリーⅠ」）の授業への出席回数が6回以上であることが前提となります。

③ 海外スタディ・ツアーの費用について

旅費・交通費、研修期間中の現地滞在費（ホテルまたは学生寮）、海外留学保険などの基本的な費用は大学が負担します。食費等その他の費用は、原則として学生本人の負担となります。その他、必要となる経費の詳細は、別途お知らせします。

④ 海外スタディ・ツアーの行き先決定について

学生は、関心のある研修テーマを選択し、それを基に、大学が研修地を調整・決定します。ただし、研修地ごとに催行人数が設定されていますので、必ずしも希望どおりの研修地に留学できるとはかぎりません。

なお、健康上の理由などで特定の地域への渡航が困難であるなど、特段の配慮が必要な場合には、国際戦略部までご相談ください。また、世界情勢の変動等の理由により、渡航先を変更する場合があります。

⑤ 参加できない場合

「海外スタディ・ツアー」は必修であり、参加しなければ卒業はできません。もし、入学手続き後に健康上の理由等で参加が難しくなった場合は、国際戦略部までご相談ください。

〔留学先の概要〕

※世界情勢の変動等の理由により、渡航先を変更する場合があります。

1) リトアニア

主な研修地	カウナス
受 入 人 数	最大30名
提 携 大 学	ヴィータウタスマグナス大学（国立・1922年設置）
研修テーマ	◎人道支援、○歴史理解、○対立・紛争・連帯など
特 徴	バルト3国の一つであり、第2次世界大戦時にソ連への編入やナチス・ドイツの占領を受けた歴史をもつリトアニアの旧首都カウナスは、日本の外交官である杉原千畝が職を賭してユダヤ人にビザを発給した地でもある。そのカウナスで、杉原記念館やホロコーストに関する歴史遺産でのフィールドワークを行い、「人道支援」のテーマについて深く学ぶとともに、「20世紀以降の中東欧史」や「紛争と対立からの脱却」などについて学修する。

2) インド

主な研修地	プネ
受 入 人 数	最大30名
提 携 大 学	シンバイオシス大学（私立・1956年設置）
研修テーマ	◎多文化共生、○宗教、○貧困と格差など
特 徴	宗教や思想、食文化や風習など様々な面で日本と異なるインドは、文化や宗教の異なる多数の民族が暮らす国であり、深刻な貧困や教育の問題を抱える一方で、IT先進国でもある。今後、日本との関係はますます強くなっていくと考えられる。そのインド中部に位置し、国内屈指の治安の良さを誇る学園都市のプネで、「多文化共生」について学修するとともに、学校に通えない子どもたちに教育の場を提供するNGOでのフィールドワークなどを通じて「宗教の多様性」や「貧困と格差」についても学修する。

3) エルサレム（※2024年度以降派遣休止）

主な研修地	エルサレム
受 入 人 数	最大30名
提 携 大 学	ヘブライ大学（国立・1918年設置）
研修テーマ	◎宗教、○歴史理解、○人道支援など
特 徴	エルサレムは、過去幾多の迫害にあったユダヤ人が建国した国家イスラエルの中心地であり、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の聖地でもある。一方で、現在ではパレスチナをめぐる対立が続いており、各国が支援をおこなっている。そのエルサレムで、「宗教の多様性」や「イスラエル・パレスチナの歴史」について深く学修するとともに、JICA等の日本の支援機関でのフィールドワークを通じ「人道支援の現状」を学修する。

4) マレーシア・ボルネオ

主な研修地	（半島部）クアラルンプール近郊 （ボルネオ島）クチン
受 入 人 数	最大15名
提 携 大 学	（半島部）プトラ大学（国立・1931年設置） （ボルネオ島）スウィンバーン工科大学サラワク校（私立・2000年設置）
研修テーマ	◎サステナビリティ、○宗教、○多文化共生など
特 徴	マレー系、中華系、インド系及び先住民族からなるマレーシアは、古くからの親日国としても知られている。その首都クアラルンプールがある半島部では、「多文化共生」や「宗教の多様性」について学修する。また、同国のボルネオ島は世界有数の熱帯雨林や生物多様性が特徴の地域であり、同地に滞在して、熱帯雨林再生プロジェクトなどのフィールドワークに取り組み、SDGsのテーマである「開発とサステナビリティの両立」について深く学修する。

(2) 長期留学

① 概要

本学部では、3年次前期までに培った語学及び専門教養の学修成果を更に深めるため、3年次後期にニューヨーク州立大学（SUNY）へ半年間留学することを必修としています。

SUNYとは、アメリカ合衆国ニューヨーク州に立地する64校からなる州立大学機構の総称です。ニューヨーク州全域で、研究重点大学からリベラルアーツ・カレッジ、教員養成系大学、そしてコミュニティカレッジまで、機能や特色が異なる64校を有し、6千を超える学科と40万を超える学生を有する全米有数の巨大大学群です。

② 単位認定について

SUNYで修得した単位については、留学科目として最大16単位までを卒業要件単位として認定します。

③ 留学先の決定について

提携しているSUNYの8校は、いずれもリベラルアーツを幅広く学ぶことができる大学であり、またそれぞれに特徴があります。学生は、3年次前期までの学修内容をさらに発展させる観点に立って、アドバイザーの指導のもとに、学びをもっとも深めることができる留学先を選びます。

ただし、SUNYの各校に本学から留学できる人数には枠があるため、希望者の数がそれを上回った場合には調整を行うことがあります。また、各校ごとに、英語スコア（TOEFL、IELTS、Duolingoなど）、GPA等の基準が設定されているため、基準を満たさない場合は、希望する大学に留学が認められないことがあります。

④ 留学費用について

留学のための費用として以下のア) イ) ウ) が必要となります。これらの費用は、為替レートや物価の変動により、変更になる可能性があります。なお、留学期間に相当する3年次後期の本学部の授業料（580,000円）は免除となりますが、留学管理料として50,000円を納入します。

ア) 留学先大学に納入する費用

現地での実習に係る実費として「授業料」、「課外活動費などの授業料付帯経費」、「留学先大学指定保険料」、「住居費（寮費）」、「食費（ミールプラン）」等として、約12,000～約19,000アメリカドル（2025年1月時点）がかかる見込みです。

イ) 渡航に関わる費用

「航空券代」、「海外留学保険料」、「ビザ取得代金」、「その他の費用（安全対策経費等）」として、約500,000円（2025年1月時点）がかかる見込みです。

ウ) その他の費用

「ミールプラン以外の食費」、「教材費」、「日常の生活費（交通費、消耗品費、小遣い等）」がかかります。

※本学部では、留学が必修であることに鑑み、奨学金制度を設けており、入学後の成績優秀者に対し、100万円を支給します（GLA Outstanding Student Scholarship）。詳細に関しては、学内掲示を確認してください。

⑤ 参加できない場合

この留学は必修となっていますので、留学に参加しなければ卒業はできません。入学後に、健康上の理由もしくは直前の不慮の事故等で参加が難しくなった場合は、国際戦略部までご相談ください。

(3) その他の留学について

本学部では、SUNYへの長期留学とは別に、学生自身が国・地域や大学を選んで留学する認定留学制度は設定していません。ただし、休学して一定期間留学することは可能です。

また、春期・夏期休暇を利用し、学内募集の海外短期研修に参加することが可能です。研修参加費用は自己負担となるほか、事前オリエンテーションの出席など、大学が定める手続きを要します。

国際戦略部では、留学全般に関する個別相談やイベントを実施しています。本学部の留学、その他の留学について質問がある場合は、国際戦略部まで相談してください。

〔留学先の概要〕

2025年2月時点

1) SUNY フレドニア校

創 設 年	1826年
立 地	ニューヨーク州最西部、エリー湖畔
学 生 数	4,431名
特 徴	ニューヨーク州西部、カナダ国境に近いエリー湖に沿った小さな町に立地する典型的なリベラルアーツ・カレッジ。もともと教員養成校として設置された経緯から、日本の大学とは、愛知教育大学、新潟大学と協定を結び学生の交流を行っている。フレドニア校の独自の特色は、International Pathway Programを有する点であり、英語力が十分でない学生が正規課程に編入するための英語予備教育を行っている。

2) SUNY ジェネシオ校

創 設 年	1871年
立 地	ニューヨーク州西部
学 生 数	5,494名
特 徴	ニューヨーク州西部の山間の小さな町にある、町と大学がほぼ一体化した立地環境のリベラルアーツ・カレッジ。非常に広範な学問分野の講座を開設しており、時として、私立の著名なリベラルアーツ・カレッジと比肩する大学として、各種の大学ランキングにおいても高く評価されている。

3) SUNY コートランド校

創 設 年	1868年
立 地	ニューヨーク州中部
学 生 数	6,343名
特 徴	ニューヨーク州西部の小さな町に立地する、教員養成大学を前身とするリベラルアーツ・カレッジ。現在では、卓越したスポーツビジネス分野の教育環境を有し、学生スポーツが盛んで、各種の機器やコートを備えた巨大なスポーツジムも擁する。

4) SUNY オスウィーゴ校

創 設 年	1861年
立 地	ニューヨーク州中央部北西
学 生 数	6,673名
特 徴	オンタリオ湖の湖岸にある港町に立地しており、豊富な自然を感じられる落ち着いた環境である。シラキウス国際空港から約1時間、カナダ国境まで約3時間で行くことが可能。100以上の専攻を有する総合大学で、幅広い分野のアカデミックプログラムを提供している。

5) SUNY ニュー・パルツ校

創 設 年	1828年
立 地	ニューヨーク州東部、ハドソン川流域
学 生 数	6,692名
特 徴	マンハッタンから北に2時間ほどの、ニューヨーク州で最も早く開拓された歴史のある町に立地するリベラルアーツ・カレッジ。今回の7校のなかで、もっとも規模が大きく、開設されている分野も最多で評価が高い大学である。マンハッタンから遠くないという利点を生かし、国連と連携した「グローバル・エンゲージメント・プログラム (GEP)」と称するインターンシップ・プログラムを実施している。併せて、同校ではアジア研究の学科があり、日本語専攻が設置されている。なお、同校は、SUNYでも顕著なPathway 教育を実施するHaggerty Program (ESL) を有している。

6) SUNY パーチェス校

創 設 年	1967年
立 地	ニューヨーク市北郊 (ウエストチェスター)
学 生 数	4,134名
特 徴	写真・映像・演劇・ダンスなどの芸術分野で秀でたりベラルアーツ・カレッジである。一方で、生物学や人文・社会科学分野にも力を入れている。日本からの留学生は、ほぼ全員が、芸術分野で学んでいる。校舎の廊下など、あらゆるところに学生や卒業生の作品が掲示されている。今回の7校のなかでは、マンハッタンから北へ40分ほどのところに立地しており、ニューヨーク・シティーにもっとも近いというメリットを享受することができる大学である。

7) SUNY オールド・ウエストバリー校

創 設 年	1965年
立 地	ニューヨーク市北郊 (ロングアイランド)
学 生 数	4,784名
特 徴	ニューヨーク東郊のロングアイランドに立地する大学。JFK空港からもっとも近く、マンハッタンにも1時間程度で出ることが可能。その立地の特性からも、移民の子女を積極的に受け入れており、極めて多様性に富む大学である。

8) SUNY モホーク・バレー・コミュニティカレッジ (2年制大学)

創 設 年	1946年
立 地	ニューヨーク州中央部
学 生 数	5,140名
特 徴	1946年創立のニューヨーク州立大学初のコミュニティカレッジ。ニューヨーク州の中心部に位置する。少人数制のクラス(教員1人に対し学生18人程度)を基本としている。キャンパスはダイバーシティな環境であり、リベラルアーツ教育に定評がある。

(7) 自由選択科目

自由選択科目は、下記の科目を充てることができます。

イ. 各科目群の要件を超えて修得した単位

ロ. 外国語学部の英語科目、研究科目、及び自由選択科目のうちグローバル・リベラルアーツ学部に開放された科目

外国語学部英語科目

- ・ 時事英語Ⅰ・Ⅱ、ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ
- ・ Effective Language Learning CourseⅡ (ELLCⅡ)、Effective Learning ModuleⅡ (ELMⅡ)
- ・ TOEIC科目全般
- ・ TOEFL科目全般 (TOEFL ITP480演習の英米語学科1年次指定クラスは除く)

外国語学部研究科目

- ・ 研究科目全般

外国語学部自由選択科目

- ・ キャリア科目全般
- ・ 選択外国語Ⅰ(b)・Ⅱ・Ⅲ
- ・ トライ外国語、トライ・ことばと文化
- ・ 検定試験 (外国語)

<履修条件>

- ・ 履修学年、前提科目、語学基準等の履修条件は、外国語学部の条件が適用されます。詳しくは外国語学部・学生便覧を参照してください。
- ・ 履修者多数の科目については、外国語学部生の履修が優先となります。
- ・ 一部の科目、クラスについては履修できません。履修の可否は、シラバスや初回授業で担当教員へ確認してください。

【自由選択科目 Effective Learning ModuleⅡ】

<履修についての注意>

科 目 名	履修年次	単位数	履修条件・備考
Effective Learning ModuleⅡ (ELMⅡ)	1～4	1	GLA Self-Directed Learningで学んだことを踏まえ、SALCラーニングアドバイザーのサポートを受けながら自分の決めた目標に取り組み、学習者としての力を更に伸ばすコース。 履修条件：GLA Self-Directed Learningを履修済 重複履修可、評価は「P」

イ. 履修登録は必要ありませんが、モジュールの登録は必要です。各学期の初めに出されるSALCモジュールの受講に関する説明に従い、オンライン登録してください。

ロ. オンライン登録後に行われる各モジュールの説明会に必ず出席してください。

ハ. 各モジュールの履修期間は1学期間です。

ニ. ELMⅡとEffective Language Learning CourseⅡ (ELLCⅡ)は同時履修できません。

ホ. 履修登録上限単位数には含まれません。

自由選択科目

科 目 群	授 業 科 目 の 名 称	履修年次	単位数	備考
外国語学部 英語科目	時事英語Ⅰ	1 後～4	2	
	時事英語Ⅱ	1 後～4	2	
	ビジネス英語Ⅰ	1 後～4	2	
	ビジネス英語Ⅱ	1 後～4	2	
	Effective Language Learning CourseⅡ	1 後～4	1	2025年度入学者 以降対象※1
	Effective Learning ModuleⅡ	1 後～4	1	2025年度入学者 以降対象※1
	TOEIC500演習	1 後～4	1	
	TOEIC600演習	1 後～4	1	
	TOEIC700演習	1 後～4	1	
	TOEIC800演習	1 後～4	1	
	TOEIC900演習	1 後～4	1	
	TOEFL ITP480演習	1 後～4	1	
	TOEFL ITP500演習	1 後～4	1	
	TOEFL iBT68演習 Listening/Reading	1 後～4	1	
	TOEFL iBT68演習 Speaking/Writing	1 後～4	1	
	TOEFL iBT80演習 Listening/Reading	1 後～4	1	
	TOEFL iBT80演習 Speaking/Writing	1 後～4	1	
外国語学部 研究科目	研究科目全般	1 後～4	2～4	外国語学部学生 便覧を参照
外国語学部 自由選択科目	キャリア科目全般	1 後～4	1～2	外国語学部学生 便覧を参照
	選択外国語Ⅰ(b)・Ⅱ・Ⅲ	1 後～4	1	
	トライ外国語	1 後～4	1	
	トライ・ことばと文化	1 後～4	1	
	検定試験(外国語)	1 後～4	1～6	

※1 Effective Language Learning CourseⅠとEffective Learning ModuleⅠは1年次に履修するGLA Self-Directed Learningと同一内容です。

Ⅸ 試験及び学力評価について

1. 試験

1) 試験の種類

試験の種類は、次の3種類です。

- イ. 期末試験
- ロ. 平常試験
- ハ. レポート

上記の他、追試験、卒業再試験、選択外国語科目再試験があります。

イ. 期末試験

期末試験とは、その試験の結果により当該科目の単位修得の可否及び成績評価を決定づける試験であり、原則として大学が定めた期末試験期間に行われるものをさします（授業期間に行われることもあります）。

- ① 追試験は、以下の理由で期末試験に欠席し、担当教員に承認された場合、受験することができます。受験を希望する場合、必ず証明書を用意した上で教務部の指示を受けてください。証明書が用意できない場合は、追試験の申し込みは出来ません。ただし、すべての科目で追試験が実施されるとは限らないので注意してください。公欠（以下の理由A及びB）によって期末試験を受験できなくなった学生については、所定の手続きを取れば受験できなかった全ての科目で追試もしくはそれに代わる措置を講じるものとします。ただし、その場合でも追試設定日やレポート提出期限は、前期は8月中旬まで、後期は2月上旬を限度とします。授業期間に行われる期末試験を欠席した場合の取り扱いについては、教員、教務部の指示を受けてください。

理 由	証 明 書
A. (公欠) 学校感染症	KUIS登校許可書 (p.8「公欠」学校感染症に罹患した場合を参照)
B. (公欠) 裁判員制度による欠席	裁判員制度による「公欠」の確認書 (p.8「公欠」裁判員制度による欠席を参照)
C. 病気 (学校感染症を除く)	医師の診断書または病院の医療費領収書等
D. 忌引 (三親等以内の通夜と葬儀。法事は含まない)	葬儀の日程などがわかる印刷物
E. 就職試験	就職試験受験を証明するもの
F. 災害 (台風・水害・火災等)	被災証明書
G. 交通関係	遅延証明書 (遅延)、事故証明書 (事故)
H. 体育スポーツセンターが認定する公式戦への出場	体育スポーツセンター長・学生委員長連名の欠席届

- ② 追試験の申し込みについては、次のことに注意してください。

- ・ 追試験の受験を希望する場合、事前に担当教員へ直接連絡してください。ただし教員から追試験についての指示や連絡先が教えられていない場合には、教務部まで連絡してください。急な欠席の場合は当日中（やむを得ない場合は翌日の17時まで）に連絡してください。連絡のない場合には、追試験の受験資格がなくなります。追試験申請手続きは、当該科目の試験日から1週間以内に、教務部に証明書等を持参して追試験願（指定書式）を提出してください。当該科目担当教員から受験が許可された場合、追試験手数料（1つの事由につき一律1,500円）を納入して、手続きをしてください。なお、授業期間に行われる期末試験の追試験については、追試験手数料納入の必要はありません。
- ・ 寝坊や勘違いなどの学生本人の責任に帰する理由は、一切認めません。

ロ. 平常試験

通常授業中に行う平常試験では、教務部手続きによる追試験はありません。欠席等の場合は、直接担当教員に連絡して指示を受けてください。

公欠の場合、追試験は行われますが教務部での手続きは不要です。実施時期については、担当教員の指示を受けてください。

ハ. レポート

レポートは、提出方法、提出期限、用紙等を十分に担当教員に確認のうえ、必ず学生本人が科目担当教員に提出してください。

公欠の場合には、レポートの提出期限は延長できるものとします。教務部での手続きは不要です。提出期限については、担当教員の指示を受けてください。

2) 受験上の注意

イ. 試験会場においては、学生証（追試験手数料を納入した場合は追試験手数料領収書を、卒業再試験、選択外国語科目再試験の場合は受験票を添える）を、必ず机上に置いてください。学生証を所持しない学生は、受験できません。学生証を忘れた場合は、教務部で「仮学生証」（当日のみ有効）の交付を受けてください。

ロ. 試験開始後、15分以上の遅刻者は、受験することができません。また試験開始後20分を過ぎるまでは退場できません。入退室の許可については、担当教員の指示に従ってください。

ハ. 試験答案に記名を忘れた場合は、未受験の扱いとなります。

ニ. スマートフォン・携帯電話・ウェアラブル端末・その他の電子機器類は、電源を切ってかばんの中にしまってください。

ホ. その他試験について別途指示することがあるので、注意してください。

3) 不正行為厳禁

イ. レポートや論文で、他人が書いたものやインターネットの記述を丸写ししたり、資料や情報の出典を明記せずに使用してはいけません。それは剽窃（盗作）にあたる不正行為であり、著作権を侵害する犯罪です。

ロ. 期末試験・平常試験で不正行為をした場合は、①その科目の単位は失格（不合格）となり、かつ、②当該学期の全履修登録科目も失格（不合格）となります。③さらに、譴責（けんせき）や停学等の処分を受けることがあります。

不正行為とは、試験（クイズ、小試験、平常試験、期末試験のすべてを含む）において正当な手段をとらずに自己の解答を作成すること、他人の不正行為を助けたり、監督者の指示に従わないことです。例えば、他の学生答案を見る、他の学生に自分の答案を見せる、答えを口頭で教える、カンニングペーパーを使用する、などの行為です。

なお、疑われるような不審な行動も不正行為とみなされます。試験場では必ず注意事項を守り、監督者の指示に従うようにしてください。監督者の指示に従わないことも不正行為となります。

4) 授業科目における生成系AI（ChatGPT等）の利用について（注意・禁止事項）

近年、人工知能（AI）技術は急速に発展し、画像や文書などのテキストを自動的に作成する生成系AI（ChatGPT等）が開発され、利用できるようになっています。こうしたツールによって生成される文章、翻訳、質問応答には精度の高い情報が含まれており、今後、社会で広く活用されていくことが予測されます。その一方で、大学では、生成系AIとどのように対峙し、活用していくべきかが喫緊の課題となっています。

皆さんは、外国語の学習とそれに連なる様々な研究領域の知識を学習する過程で、多種多様な情報を吟味し、それらを自分の中に取り込み、知識の体系として統合していくことのできる批判的思考力を獲得することが期待されています。したがって、AIの正負両面の特性を理解し、社会において有効に活用することのできるリテラシーを獲得して欲しいと考えます。

授業科目における課題等の作成においては、安易に生成系AIを利用することなく、利用する場合は以下の点に留意してください。

- イ. 生成系AIの出力をそのまま授業のレポート等に用いることは、「不正行為（剽窃）」とみなされます。
- ロ. 授業担当教員によって生成系AIの使用が認められる場合は、必ずその指示に従ってください。
- ハ. 生成系 AI の出力には誤った情報が含まれていることがあります。生成系AIの出力を用いる場合は、自らその信憑性を確認する必要があります。
- ニ. 生成系AIはインターネット上のコンテンツを利用してテキストを生成しているため、利用者は知らずして著作権を侵害する可能性があります。
- ホ. 個人情報、未発表の著作物などを生成系AIに入力すると、意図せずして機密情報が流出、漏洩し、社会的な責任が問われる可能性があります。
- ヘ. 生成系AIに入力した情報は、データベースに蓄えられ、他の利用者への回答に利用される可能性があります。そのため、個人情報、学籍番号、メールアドレスなどは、絶対に入力しないでください。

2. 学力の評価

1) 学力の評価

評価は「A+」、「A」、「B」、「C」、「P」、「F」の6種類によって表示します。

100～90点	A+	}	合格
89～80点	A		
79～70点	B		
69～60点	C		
認定	P		
59～0点	F	——	不合格

なお、Self-Directed Learning、TOEFL ITP演習、グローバル・ディスカバリー I・II、グローバル・ディスカバリー（フィールドワーク）は、認定科目（「P」または「F」で評価が付される科目）となります。

また、卒業再試験、選択外国語科目再試験の評価は、「C」または「F」の2種類（認定科目は「P」または「F」）で表示します。

2) 成績発表

成績は、学生用ポータルサイト（UNIPA）で通知します。また、保証人に対しては別途成績通知表を郵送します。成績発表時期等については、学生用ポータルサイト（UNIPA）及び掲示板で連絡します。

3) 卒業要件の確認

学生用ポータルサイト（UNIPA）の成績照会画面によって、学期毎に卒業要件を自分がどれだけ満たしているかを確認してください。確認を怠って4年間での卒業が困難とならないよう慎重に学修計画を立ててください。

3. GPA

1) GPAとその利用目的

GPAとは、Grade Point Averageの略で、高校の評定平均のように学業結果を総合的に判断する指標となるものです。成績評価の国際基準に対応するためだけではなく、自らが学修計画を立てる際の指標としても利用できます。その他、学修指導、進路指導、留学時の授業料免除の基礎資料としても利用されます。

2) GPAの計算式

学期毎に、個々の履修登録科目のGP (Grade Point) にその科目の単位数をかけ、その総和を履修登録科目の総単位数で割ってGPAを算出します。「F」評価（不合格）の科目も、GPA計算時の対象となります。認定科目（「P」 or 「F」）は、GPAの算出対象外です。

・成績評価基準

判 定	評 点	評 価	GP
合 格	100-90	A+	4.0
	89-80	A	3.0
	79-70	B	2.0
	69-60	C	1.0
	認 定	P	—
不合格	59点以下	F※	0

※認定科目は算出対象外

(例)

授業科目名	単位数	成績評価	単位数×Grade Point
歴史学 I	2	A +	$2 \times 4 = 8$
English for GLA I	2	B	$2 \times 2 = 4$
研究演習Ⅲ	4	A +	$4 \times 4 = 16$
人間と文学	2	A	$2 \times 3 = 6$
社会と多様性Ⅱ	2	C	$2 \times 1 = 2$
国際開発論	2	F	$2 \times 0 = 0$
合 計	14単位①		36②

GPA : (② ÷ ①) → $36 \div 14 = 2.6$ (小数点第 2 位で四捨五入)

4. 成績確認制度

イ. 成績確認制度は、成績評価に対して、自分の学修成果が正しく反映されているかどうか疑いがある場合、科目担当教員に成績の確認を求める制度です。この制度を利用せずに科目担当教員に成績の確認や訂正の依頼をすることは禁止します。素点に関する確認や、成績変更の依頼などは認められません。

ロ. 「成績確認」は、所定の期間内に教務部からの案内に従って行ってください。

ハ. 「成績確認」は、原則として本人が行ってください。

ニ. 「成績確認」は、すべての評価が対象になります。

ホ. 成績に関すること以外について「成績確認願」に記入した場合は受理されず「却下」となります。

ヘ. 「成績確認願」提出にあたっては、できるかぎり主張を裏づける客観的資料を添付してください。なお、提出された資料は返却しないので、あらかじめコピーをとっておいてください。

5. 卒業再試験

イ. 卒業再試験は、以下の条件を全て満たした4年次生のみ受験することができます。ただし、すべての科目で卒業再試験が実施されるとは限らないので、注意してください。

- ① 卒業要件に対しての不足単位数が、8単位以内であること。
- ② 4年次の定期試験を受験している科目であること。
- ③ 担当教員が再試験を許可すること。
- ④ 再試験実施対象科目を合格した場合、卒業要件を満たすこと。

ロ. 卒業再試験の受験を許可された場合は、必ず本人が所定の期日に卒業再試験手数料（1科目5,000円）を納入して手続きをしてください。代理人による手続きは、一切認められません。

ハ. 卒業再試験の評価は、「C」、「F」の種類によって表示します。

その基準は下記によります。

100～60点 C —— 合格

59～0点 F —— 不合格

6. 選択外国語科目再試験

イ. 選択外国語科目再試験は、以下の条件を満たした4年次生のみ受験することができます。ただし、すべての科目で選択外国語科目再試験が実施されるとは限らないので、注意してください。

- ① 定期試験を受験していること。
- ② 担当教員が再試験を許可すること。

ロ. 選択外国語科目再試験の受験を許可された場合は、必ず本人が所定の期日に選択外国語科目再試験手数料（1科目5,000円）を納入して手続きをしてください。代理人による手続きは、一切認められません。

ハ. 選択外国語科目再試験の評価は、「C」、「F」の種類によって表示します。

その基準は下記によります。

100～60点 C —— 合格

59～0点 F —— 不合格

X 他大学及び他機関で修得した単位の認定等について

1. 単位の認定

あわせて30単位まで認定可能です。②～⑥については、内容により、認定された単位が卒業要件に算入できないことがあります。

	種 類	上限
①	長期留学（SUNY）で修得した単位（16単位まで）	「4. 入学前修得単位の認定について」とあわせて30単位
②	放送大学の授業科目	
③	千葉県私立大学・短期大学間単位互換包括協定に基づく他大学開講科目	
④	千葉大学、敬愛大学、城西国際大学及び本学から成る千葉圏域コンソーシアムの単位互換協定に基づく開講科目	
⑤	入学前に他の大学・短期大学で修得した単位（外国語科目としては認定できません）	
⑥	その他、大学が認めた教育機関で修得した単位	

2. 必修単位の履修免除制度

英語力の極めて優秀な学生に対して、卒業要件の一部を履修免除します。

学年	科目名	対象	免除科目の成績評価
1 年次 後期	TOEFL ITP演習	TOEFL ITP 500以上 ※1 教員の面接で合格した者	P
	Academic Reading (b) Academic Discussions & Presentations (b)	TOEFL ITP 550以上 ※1 教員の面接で合格した者	A +
2 年次 前期/後期	Critical Reading (a)/(b)	TOEFL ITP 550以上 ※2 教員の面接で合格した者	A +

※1 入学の2年前～1年次7月までに取得したスコアを対象とする。デジタル版のスコアも可

※2 入学の2年前～1年次1月までに取得したスコアを対象とする。デジタル版のスコアも可

3. 千葉県内の他大学の授業科目の認定について

グローバル・リベラルアーツ学部は必修科目が多く、千葉県内の他大学の授業科目を受講するためには、時間的な制約を踏まえ、綿密に履修計画を立てることが求められます。受講を考える場合には、まず教務部の窓口にご相談することをお勧めします。

方 法	1. 学生用ポータルサイト（UNIPA）で、各大学の募集要項を閲覧し、受講希望科目を決定 2. 神田外語大学教務部に受講希望の申し込み 3. 先方の大学が受講の可否を決定
受 講 料	千葉大学・敬愛大学・城西国際大学の場合：無料 上記以外の大学：受講する大学によって異なります

4. 入学前修得単位の認定について

大学に入学する前に他大学・短期大学で修得した単位は30単位を上限に本人の申請に基づき、教授会の審議を経て、本学で修得した単位として認めることができます。海外の大学等の教育機関で修得した単位も同様の扱いとなります。認定される分野については教務部で確認してください。

対 象	新入生のみ
方 法	入学年度4月の指定された日までに申請（掲示参照）
成績評価	P（包括認定）

XI 転籍（転学部）について

本学部には、1・2年次を対象とした外国語学部指定学科への転籍（転学部）制度があります。

選考に際しては、転籍を志望する明確な理由と優秀な成績が求められます。従って、転籍は容易にできるものではないと認識した上で、以下を熟読して判断してください。

この点を熟慮の上、転籍を希望する方は、早めに教務部に相談してください。

1. 転籍（転学部）について

1) 出願

イ. 出願資格

次の条件を満たすこと。

- ① 2年次生、あるいは2年次生への進級が見込まれる1年次生であること。

ただし、国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻へは2年次生への進級が見込まれる1年次生に限る。

- ② 在学の年数が2年を超えていないこと。

ただし、国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻へは在学年数が1年を超えていない者に限る。

- ③ 出願時に休学中の場合は、転籍をする年度の4月に復学する学生であること。

ロ. 出願時期：1月上旬から中旬（予定）

ハ. 出願受付窓口：教務部

2. 転籍（転学部）に伴う特例措置

1) 転籍後の在籍年次等について

転学部先の在籍年次は2年次とするが、一部科目は1年次指定のものを履修する。

2) 転籍試験とその時期

転籍先（学科/専攻）	対象学年		1次試験 （審査内容）	1次試験 日程	2次試験 内容	2次試験 日程	手続期間
	1年	2年					
英米語学科	○	○	1) 出願時にTOEFL C基準（ITP 480点/iBT 54点以上）取得済 2) 出願年度の前期まででGPA2.8以上 3) 出願年度の前期までの成績において、必修英語科目全てでA以上の成績を有し、他の必修科目全てを単位修得済であること	1月下旬～ 2月上旬	面接	2月下旬	3月上旬
国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーション専攻	○	○	1) 出願時にTOEIC L&R（IP可）650点以上取得済 2) 出願年度の前期までの成績において必修英語科目全てでA以上の成績を有すること 3) 出願年次末までの必修科目全てを単位修得見込みであること				
国際コミュニケーション学科 国際ビジネスキャリア専攻	○	×	1) 出願時にC基準取得済 2) 出願する年度の前期まででGPA2.8以上 3) 1年次必修科目全てを単位修得見込みであること				

※各年度における日程及び試験内容の詳細については例年12月に実施する説明会で確認してください。

3) 転籍後の単位認定

GLA学部と外国語学部で共通の科目以外は、1年次必修から修得が必要となることが原則である。詳細は、教務部で相談のこと。

XII GLA Commonsについて

3号館2階に、本学部における教育・学習の中心的な場所として、GLA Commons (3-250) を設置しています。オープンスペースとしても、カーテンの仕切りで区切っても使える空間で、授業だけではなく自習やグループワークなど様々な形態で活用できます。利用にあたっては、GLA Commons内共同研究室 (GLA Office) の職員の指示に従ってください。

<GLA Commons の特徴>

- ・ オープンな空間の中に様々な特徴的な場所が存在し、目的に応じて活用できます。
- ・ 可変性の高い空間で、よりアクティブな使い方ができます。
- ・ 授業の場であり、学生の日常の居場所でもあります。
- ・ GLA Commonsのコンセプトを理解した本学の学生・教職員であれば、誰でも使うことができます。

<GLA Commons のコンセプト>

●ACTIVE

- ・ アクティブラーニングにふさわしい空間
- ・ 従来の受動的な教育・学習ではなく、能動的に考え、行動することを促す空間
- ・ 新たな課題や問題に対して、よりアクティブにチャレンジしていく姿勢が身につく空間

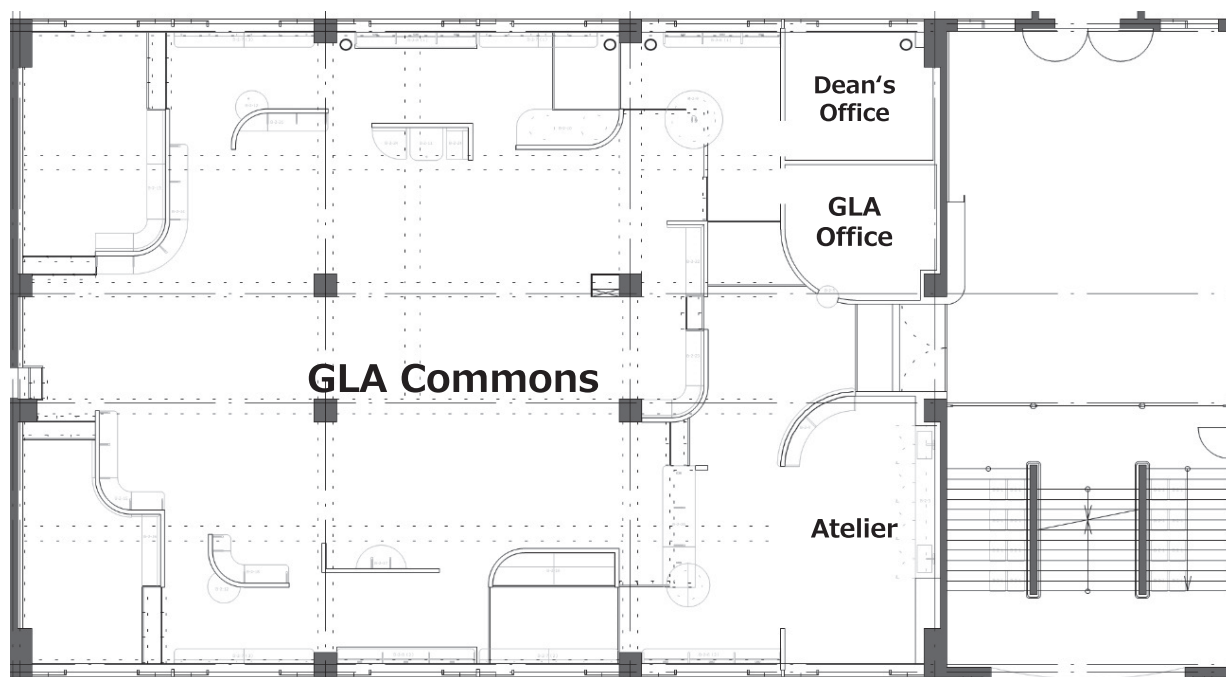
●BORDERLESS

- ・ 教室という境界をなくし、あらゆる場所が学びの場所となる空間
- ・ 利用者や使い方を限定しない、開かれた空間
- ・ 建物やキャンパスを超え、広く世界を意識することができる空間

●CANVAS

- ・ 自分たちの手で作りこんでいくことができる空間
- ・ 持続的に使い方や活用の仕方を発見していくことができる空間
- ・ そこにいる人、そこを使う人が主役になる空間

<GLA Commons> * 3号館2階西側 (KUIS ガーデン側)



XIII 学内ネットワーク、コンピュータの利用について

詳細については、学生用ポータルサイト（UNIPA）の下記項目を参照ください。

- 「学生用フォルダー」⇒ 02. 各部署情報 ⇒ 09. メディアプラザ（デジタル戦略部）
- 「リンク」⇒ Media Plaza Web

1. 学内IT設備について

(1) メディアプラザ

6号館1階にメディアプラザがあります。開館時間内であれば自由にコンピュータを使用する事ができます。また、混雑時などはノートパソコンの貸出を行っています。

※開館時間

月～金 9：00～18：00
土 閉 館
短 縮 10：00～17：00

※長期休暇期間、祭日を除く。また、臨時にメンテナンスなどで閉室する際には学生用ポータルサイト（UNIPA）にて事前にお知らせします。

(2) コンピュータ教室・共有パソコン設置場所

コンピュータ教室は、授業がない時間帯は自由に利用できます（下記Mapの4号館の各教室）。

開室時間などの開室情報はメディアプラザの受付へお問い合わせください。

Media Plaza Webからアクセスしてください。

■コンピュータ教室 / 4号館

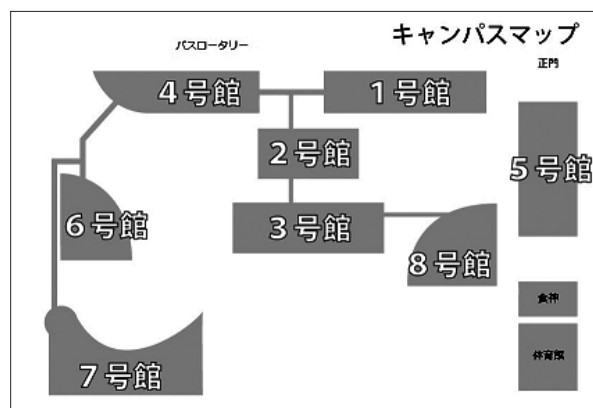
ITレクチャールーム（ITLR-1）【4-201】

ITレクチャールーム（ITLR-2）【4-202】

■共有パソコン設置場所 / 6号館

メディアプラザ【1階】

プロダクションルーム【6-102】



(3) 学内Wi-Fi

学内全域に自由に使える無線LAN環境が整っています。各自持参のノートパソコンなどで接続してインターネットを利用できます。

詳しくは、学生用ポータルサイト（UNIPA）もしくは6号館1階メディアプラザサポートデスクにお問い合わせください。

<使用上のルール>

無線LANにノートパソコンを接続する場合、必ずウイルス対策ソフトがインストールされていること。また、パターンファイルは常に最新の状態に更新してください。

<おすすめ！>

学内のWi-Fiに繋がりにくい時は、Wi-Fi設定をOFF→ONしてください。

(4) プロダクションルーム（教室）

6号館1階にプロダクションルームがあります。Macが25台あり、Webサイトやグラフィックデザイン、映像編集など様々な制作活動が可能です。

※Macは共用パソコンのため、作業後はデータの削除をお願いします。データの保存が必要な場合は、各自で保管してください。

(5) マルチパーパスルーム（MPR）

6号館1階にマルチパーパスルーム（4～5人用 7部屋）があります。MPRはプレゼンテーションの練習やグループディスカッション等に使うことができます。MPRは予約制です。

Media Plaza WebのMPR予約ページから事前に予約してご利用ください。

(6) 印刷について

学内のパソコンと各自持参のiPadやノートパソコンから、A4の大きさに印刷ができます。大学から付与されるポイント（年間で1,000ポイント）を使ってカラー/モノクロ印刷が可能です。詳しい印刷の方法は学生用ポータルサイト（UNIPA）からご確認ください。

(7) スキャンについて

6号館1階メディアプラザ、3号館2階GLA Commons、5号館キャリア教育センターにある複合機では印刷のほか書類などのスキャンができます。スキャンしたデータはGoogle Driveに保存されます。事前に初期設定が必要ですので詳しくは学生用ポータルサイト（UNIPA）からご確認ください。

(8) データの保存について

データの保存については、各自で管理するようにしましょう。USBメモリーや下記の方法でも保存できます。適材適所で使い分けてください。

オンラインストレージ

本学では、学生一人一人が、Google Driveや Microsoft OneDriveを利用する事ができます。オンラインストレージは、ノートパソコンからのデータ保存にも対応しています。

※利用に際しては後述する「3. 大学ネットワーク利用にあたっての注意点」を参照してください。

2. 学内システムの利用

(1) 学生用ポータルサイト（UNIPA）

大学から学生への様々な情報提供の場になります。重要な情報も掲載されますので頻りにチェックするようにしてください。

UNIPAの使い方や詳しい情報は、新入生メディアオリエンテーションで案内がありますので必ず確認するようにしてください。

(2) KUIS Mailの利用

学生全員にメールアドレスを発行しており、それを用いてメールのやり取りを行う事ができます。インターネットに接続できる環境で、KUIS Mailに接続するとメールの送受信が学内外から利用できます。

(3) Google Classroom

Google Classroom は、授業で利用するツールです。担当教員からの資料配布、課題、フィードバックなど、Google Classroomを通して教員とのやり取りが可能です。Google Classroom は、Google ドキュメントやGoogle Driveなどの他の Google ツールとも連携できます。

利用方法については、各授業内で教員より案内がありますので、機能をよく理解し利用するようにしましょう。

(4) マイクロソフト Office 製品の提供について

本学ではマイクロソフト社と包括契約を締結しています。

その中に含まれる特典として「Office 365 Pro PLUS」が神田外語大学の学生・教職員であれば無償で使用できます。「Office 365 Pro PLUS」はマイクロソフト社のクラウドサービスの一つですがパソコンにインストールして使えます。

詳細は、新入生メディアオリエンテーションで案内がありますので、必要な学生は利用条件を確認するようにしましょう。

(5) MyLOFT

図書館では、学外からも学内にいる時と同じように大学が契約しているデータベース等に接続できるサービス（MyLOFT）を提供しています。

KUISメールでの認証となるため、特に申請等は必要ありません。Chromeの拡張機能をインストールしてご利用ください。※Chromeの拡張機能は学内でも必要となります。

詳しくは図書館のWebサイトにてご確認ください。

3. 大学ネットワーク利用にあたっての注意点

(1) パスワードの管理

校内ネットワークやメール及び学生用Webサイトを利用するためにはパスワードが必要になります。パスワードが他人に盗まれ、悪用される可能性がありますので、パスワードの管理には十分注意してください。パスワードを設定する場合、他人が想像しにくいものにし、頻繁に変えるようにしてください。

〈主なパスワードの種類〉

種類	説明	再発行の方法
学生用ポータルサイト (UNIPA)	学生証と一緒に交付 変更不可	UNIPAのログイン画面から 再設定が可能
KUIS Mail (Gmail)	学生用ポータルサイト (UNIPA) と 同じパスワード	UNIPAの画面上にあるフォームから パスワード再設定の申請が可能 (Web申請)
学内PCサインイン		
Office365	アカウント作成時に自分で設定	ログイン画面から再設定が可能

※パスワードの再発行は翌日となります(土曜日の場合は週明け)。即日の発行はできませんのでご了承ください。

(2) 利用ルール

校内ネットワークを利用する際には、以下の注意点を守って利用してください。違反行為があった場合は、大学で処罰等の措置を講じるかどうかを審議し、決定します。

●コンピュータ実習室、メディアプラザ利用のマナー

1. 飲食物を持ち込まない。(メディアプラザではペットボトル・マイボトルなどの密閉された容器に入った飲み物は飲むことができます。)
2. 私語はしない。
3. 長時間の占有はしない。
4. 使用後は、周りを必ず整理整頓する。
5. コンピュータへソフトウェアのインストールはしない。
6. 印刷用紙は、無駄にしない。
7. コンピュータの操作の途中で退席しない。
8. 使用後は、USBメモリーを必ず持ち帰る。

●ネットワーク利用に際しての注意点

1. 法律に抵触、または公序良俗に反する行為をしない。
2. 他人のプライバシーに触れる行為をしない。
3. 著作権の侵害をしない。
4. 不用意なインターネット上のプログラムのダウンロードはしない。
5. 公共の秩序に反する情報への接続はしない。
6. ネットワーク上で、ショッピングはしない。
7. その他、一般にネットワーク上でやってはいけないとされている行為をしない。

●クラウド利用に際しての注意点

1. オンラインストレージ（Google Drive等）は、アクセス権の設定を間違えると、世界中にデータを公開してしまいますので十分にご注意ください。なお、学内アカウントを利用して学内外の不特定多数への公開・共有はしないでください。（何人かで共有するといった限定公開のアクセス権限を設定する事も可能ですが、こちらの限定公開については問題ありません。）
2. 必ずログアウトボタンを押して、自分のデータが他人に見られないように気を付けましょう。

●電子メール利用に際しての注意点

1. 他利用者の電子メールを許可なく読み、削除、変造または公開することをしてはいけない。
2. チェーンメール（拡散を目的としたもの、不確実な情報など）の発信はしてはならない。
3. 知らない人から送られてきた添付ファイルは、開かずに、削除すること。
4. 大学の授業と関係ないアンケートなどをメールで不特定多数の学生に発信することはしてはいけない。
5. シグネチャ（署名）まで含めた無意味な全文引用はしないこと。

XV KUISデータサイエンス・AI教育プログラム(基礎・応用) 履修要項

1. プログラムの趣旨

私たちが暮らす現代社会において、データやAIは様々な面で活用されており、必要不可欠なものとなっています。またそれらを正しく理解し活用できることは、今後の社会において求められるスキルともなります。

KUISデータサイエンス・AI基礎教育プログラム／KUISデータサイエンス・AI応用教育プログラムでは、このような背景において必要な力を身につけることを目指します。

各プログラムの目的は以下の通りです。

KUISデータサイエンス・AI基礎教育プログラム（これ以降「基礎」と記載する）

様々なデータやAIを基盤とした現代社会を生きていくために、それらへの関心を高め、適切に理解・活用するための基礎的素養を身につけ、データへの感性を養うこと。

KUISデータサイエンス・AI応用教育プログラム（これ以降「応用」と記載する）

デジタル社会の基盤となる技術の基本的な仕組みを理解するとともに、データやAIを適切に活用し探究活動や課題解決に役立てるための実践力を身につけること。

2. 各プログラムの修了要件

(1) いずれのプログラムも、履修をして所定の修了要件を満たせば、当該年度末に修了証が授与されます。

(2) 各プログラムの修了を目指す学生は、2年次以降の前期・後期開始前に登録を行ってください。

※基礎と応用両方の修了を目指す場合は、それぞれ登録を行ってください。

※登録以前に修得した単位も、プログラム修了のための単位として認められます。

(3) 各プログラムを修了するのに必要な要件と科目及びその単位数は以下の通りです。

基礎：以下に示す科目から必修2単位を含み、4単位を修得してください。

応用：以下に示す科目の8単位を全て修得してください。

科目名	履修年次	単位数		
		基礎		応用
		必修	選択必修	必修
デジタル・シチズンシップ論	1～4	2		2
数的思考法	1～4		2	
統計学Ⅰ	1～4		2	
統計学Ⅱ	1～4		2	
データ・サイエンス概論	2～4		2	2
コンピュータ・サイエンス概論	2～4			2
ビッグデータ解析論	3～4			2

※応用の修了を目指す場合は、基礎の修了要件になっている科目から順に履修することを推奨します。

※応用のカリキュラムに加えて、さらに実践力を高めたい学生には「エビデンスと評価」の履修も推奨します。

※本プログラムの修了を特に就職活動において活用する場合は、計画的に履修してください。

XV 大学院言語科学研究科の概要

1. 設置の目的

大学院言語科学研究科は、博士前期課程と博士後期課程とから成ります。博士前期課程には、英語学専攻（東京キャンパスのみで開講）と日本語学専攻を設置しています。日本語学専攻では、総合的、科学的な言語研究の基礎訓練を重視しつつ、一般言語理論に基づいて言語の普遍性の観点から、日本語を研究する能力を養うことを目標としています。同時に言語間の比較対照研究と社会言語学、方言学の実証的方法論を身につけ、比較文化、異文化コミュニケーションをも視野に入れることによって、言語教育その他への応用研究を実効あるものとするようカリキュラムが組まれています。

2. 英語学専攻の特色

現職英語教員及び社会人を対象とし、東京キャンパスで、TESOLプログラムを開講しています。講義はすべて英語で行い、TESOL（英語教授法）を実践的に学べます。

3. 日本語学専攻の特色

日本語学の理論的実証的研究を充実させ、研究の方法として現地調査法（フィールドワーク）と対照言語学の研究法を取り入れています。さらに日本語学研究の基礎として日本文化に関する幅広い理解と知識が得られるよう、関連の授業科目を用意して充実を図っています。また、日本語教育のプロを養成するカリキュラムも充実しています。

日本語学コース、日本語教育学コースの2コースがあります。

4. 授業時間割

1) 英語学専攻TESOLプログラム

土・日及び長期休暇期間に集中で講義を行います。

2) 日本語学専攻

月～金曜日、午前9時から午後6時の間に5コマの授業時間を設けています。

1 限目	9 : 00～10 : 30
2 限目	10 : 40～12 : 10
3 限目	13 : 10～14 : 40
4 限目	14 : 50～16 : 20
5 限目	16 : 30～18 : 00

5. 修了の要件

英語学専攻（TESOLプログラム）は必修、選択必修、選択科目の中から31単位以上を修得し、MA Research Projectに合格することが求められます。

日本語学専攻は各コースの定める科目から32単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格することが求められます。なお、各コースの定める科目から40単位以上を修得したものについては、修士研究報告の審査をもって修士論文の審査に代えることもできます。

6. 学位

博士前期課程を修了した者には、本学の規定の定めるところにより、修士（文学）の学位を授与します。

7. 修了証取得

日本語学専攻では、選択したコースにかかわらず、大学院が定める授業科目を履修することによって、日本語教育教員養成プログラム修了証を取得できます。

8. 募集人員

言語科学研究科博士前期課程

英語学専攻（TESOLプログラム） 8 名

日本語学専攻（日本語学・日本語教育学） 8 名

・ 本学学部出身者は入学金が免除されます。

9. 博士後期課程

博士後期課程は、言語科学専攻として、総合的な言語研究を行い、それぞれの専門分野で研究者として自立していくために必要な、高度な研究能力を培います。

10. 授業科目

下記のサイトで開講科目について参照することができます。

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/faculties/graduate/tesol/> 英語学専攻（TESOLプログラム）

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/faculties/graduate/japanese/> 日本語学専攻

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/faculties/graduate/expert/> 言語科学専攻（博士後期）

2025年度 グローバル・リベラルアーツ学部 学生便覧

2025年4月1日発行

編集・発行 神田外語大学 教務部

〒261-0014 千葉県美浜区若葉1-4-1

電話番号 043-273-1320



神田外語大学

千葉県千葉市美浜区若葉1-4-1

学籍番号

氏 名